

A工区地質記載シート

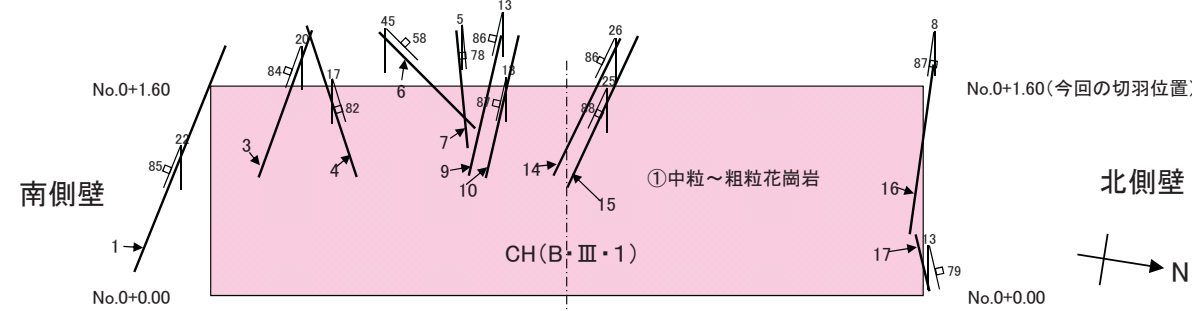
A5-請負-計測工(地質)-121122

シート番号	57mボーリング西横坑1	日時	2012/11/22 15:30~17:00	位置・深度	57mボーリング西横坑1 G.L. -496.5 m~G.L. -500.2 m	観察・撮影者	
-------	--------------	----	---------------------------	-------	---	--------	--

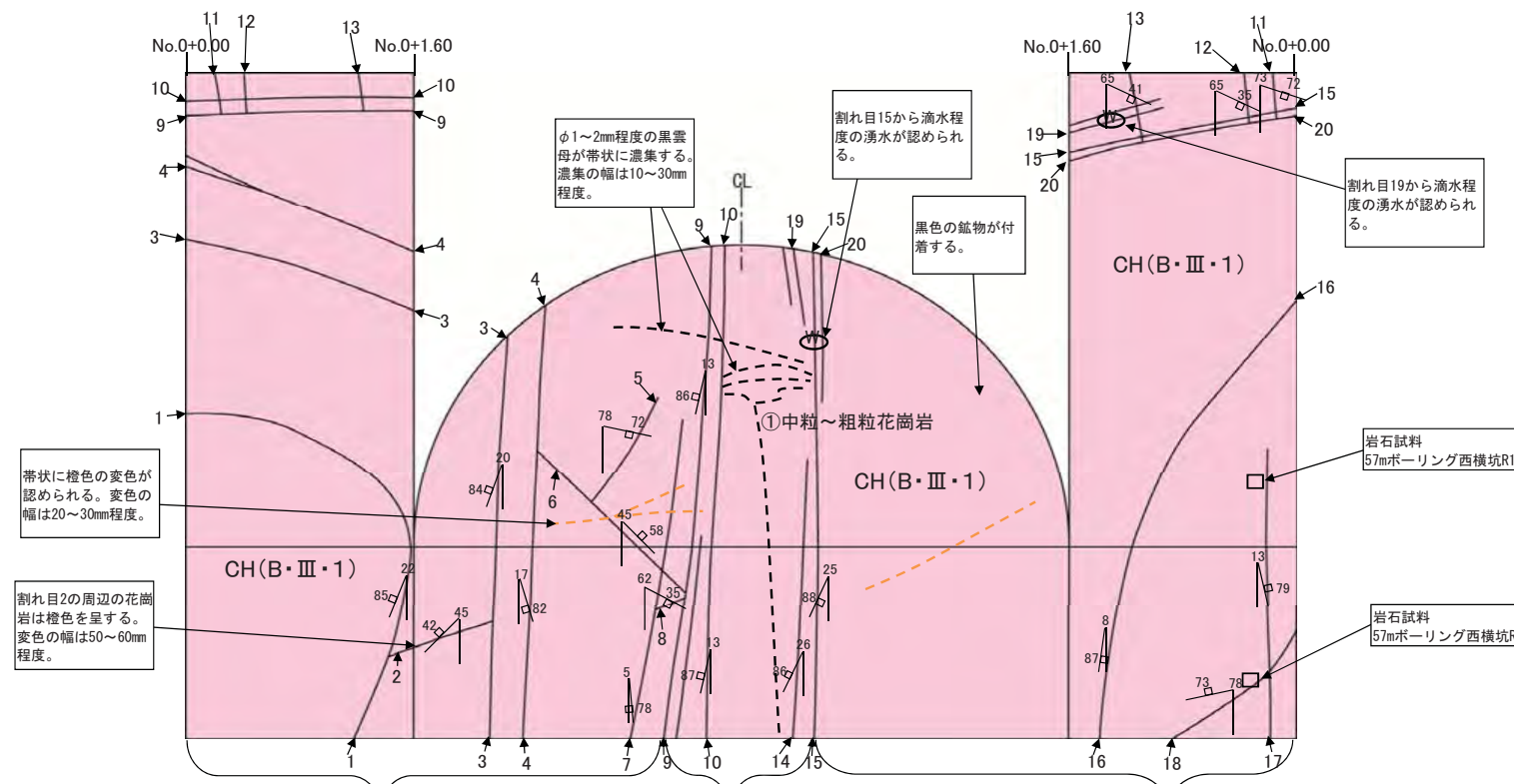
総括監督員	主任監督員	監督員	担当者

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体
現場代理人

凡例	花崗岩	割れ目	割れ目の走向傾斜	岩級区分境界	湧水	黒雲母の濃集	橙色の変色
----	-----	-----	----------	--------	----	--------	-------



スライス断面図

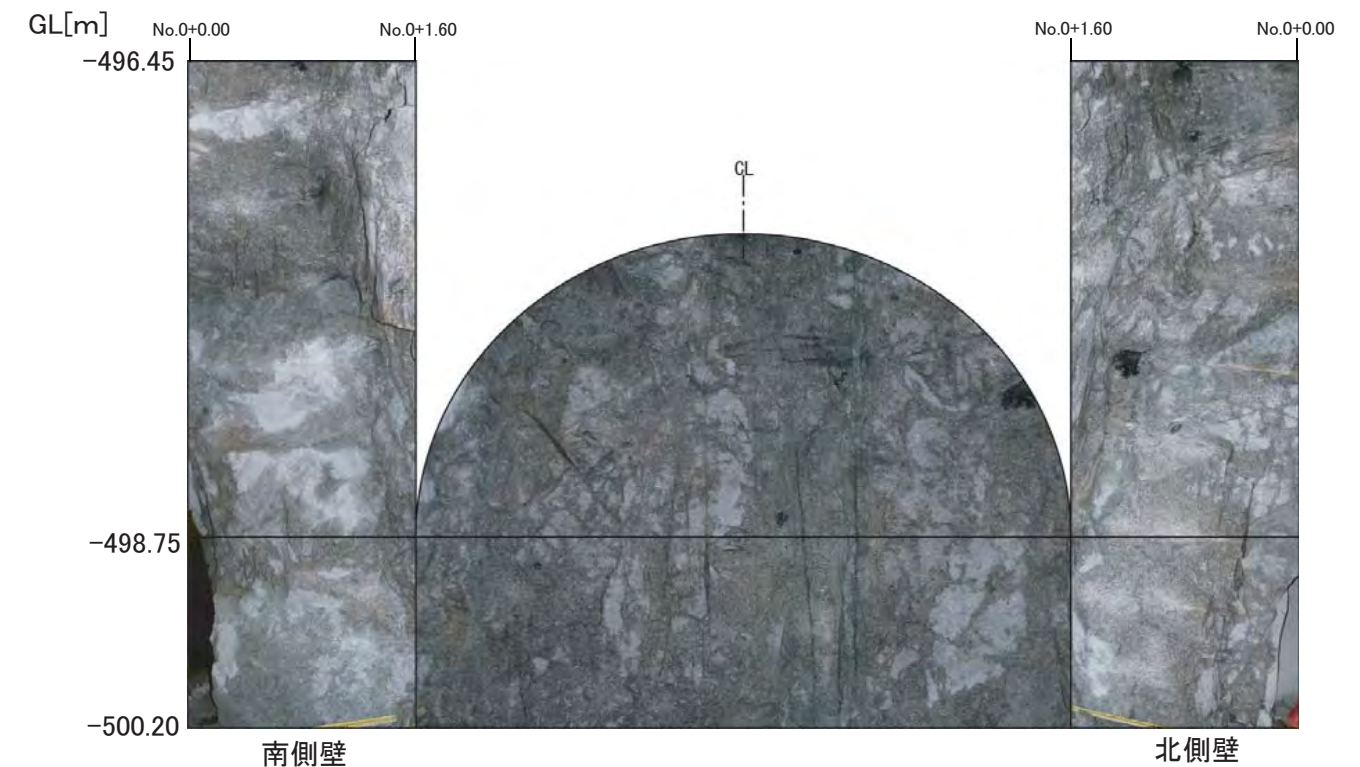


スケッチ

WNW走向高角度北傾斜の割れ目が30~60cm程度の間隔で、NE走向高角度北傾斜の割れ目が50~60cm程度の間隔で認められる。他にNW走向中角度北傾斜の割れ目2、NNE走向高角度西傾斜の割れ目5、NE走向中角度東傾斜の割れ目6、NE走向中角度西傾斜の割れ目8が認められる。
割れ目はクォーライトとカルサイトを介在する。
花崗岩に変質はほとんど認められず、ほとんどの有色鉱物が残存している。
花崗岩は全体に淡桃色を呈し、割れ目2、4の周辺の花崗岩は橙色を呈する。
ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さ。

WNW走向高角度北傾斜と南傾斜の割れ目が20~30cm程度の間隔で認められ、この割れ目で止まるNNE走向中角度西傾斜の割れ目が20~40cm程度の間隔で認められる。
割れ目にはカルサイトとクォーライトを介在する。このうちクォーライトはWNW走向高角度の割れ目に介在する。
花崗岩は程度の弱い変質により、黒雲母などの有色鉱物の一部がクォーライトに置き換わる。カリ長石は淡褐色を呈する。
ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さ。

WNW~ENE走向高角度南傾斜の割れ目が20~60cm程度の間隔で認められる。他に、NW走向高角度東傾斜の割れ目18が認められる。
割れ目にはクォーライト、カルサイトを介在する。クォーライトはWNW~ENE走向高角度割れ目に介在する。
花崗岩に変質はほとんど認められず、黒雲母などの有色鉱物のほとんどが残存している。花崗岩は全体に淡桃色を呈する。
ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さ。



可視画像



岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -496.45m~-498.95m CH G.L. -498.95m~-500.2m CH
岩相	①中粒~粗粒花崗岩 (淡桃色、橙色、淡褐色)	RMR値	G.L. -496.45m~-498.95m 66 G.L. -498.95m~-500.2m 72
風化	α	岩石試料番号	57mボーリング西横坑R1-1 (花崗岩), 57mボーリング西横坑1-2 (花崗岩)
変質	1~2	採水試料番号	-
湧水	滴水		

特記事項

当箇所は57mボーリング西横坑であり、掘進方向はN81°E方向である。横坑観察は切羽から1.6m離れた場所より目視観察を実施した。岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径がφ2~7mm程度の中粒~粗粒花崗岩である。花崗岩の変質の程度は、割れ目9付近から割れ目15付近の間は弱い変質により、有色鉱物の一部がクォーライトに置き換わる。カリ長石は淡褐色を呈する。割れ目9付近から南側と割れ目15付近から北側は変質はほとんどなく、有色鉱物のほとんどが残存し、花崗岩は全体に淡桃色を呈する。割れ目の走向傾斜は、割れ目9付近から南側では、WNW走向高角度北傾斜とNE走向高角度北傾斜が主体で、他にNW走向中角度北傾斜やNNE走向高角度西傾斜、NE走向中角度東傾斜、NE走向中角度西傾斜が認められる。割れ目9付近と割れ目15付近の間はWNW走向高角度北傾斜と南傾斜認められ、他にNNE走向中角度西傾斜が認められる。

割れ目15付近から北側の割れ目の走向傾斜は、WNW~ENE走向高角度南傾斜が主体で、他にNW走向高角度東傾斜が認められる。割れ目の介在物は、カルサイトとクォーライトが認められる。湧水は鏡中央の割れ目15と天端の割れ目19から滴水程度で認められた。岩級区分は、割れ目間隔が20~60cm程度で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることから、CH(B・Ⅲ・1)級と評価した。

A工区地質記載シート

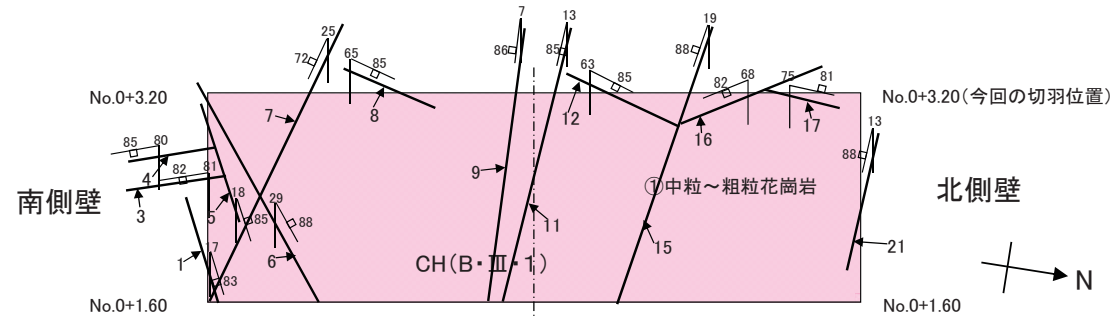
A5-請負-計測工(地質)-121123

シート番号	57mボーリング西横坑2	日時	2012/11/23 16:30~18:00	位置・深度	57mボーリング西横坑2 G.L. -496.5 m~G.L. -500.2 m	観察・撮影者	
-------	--------------	----	---------------------------	-------	---	--------	--

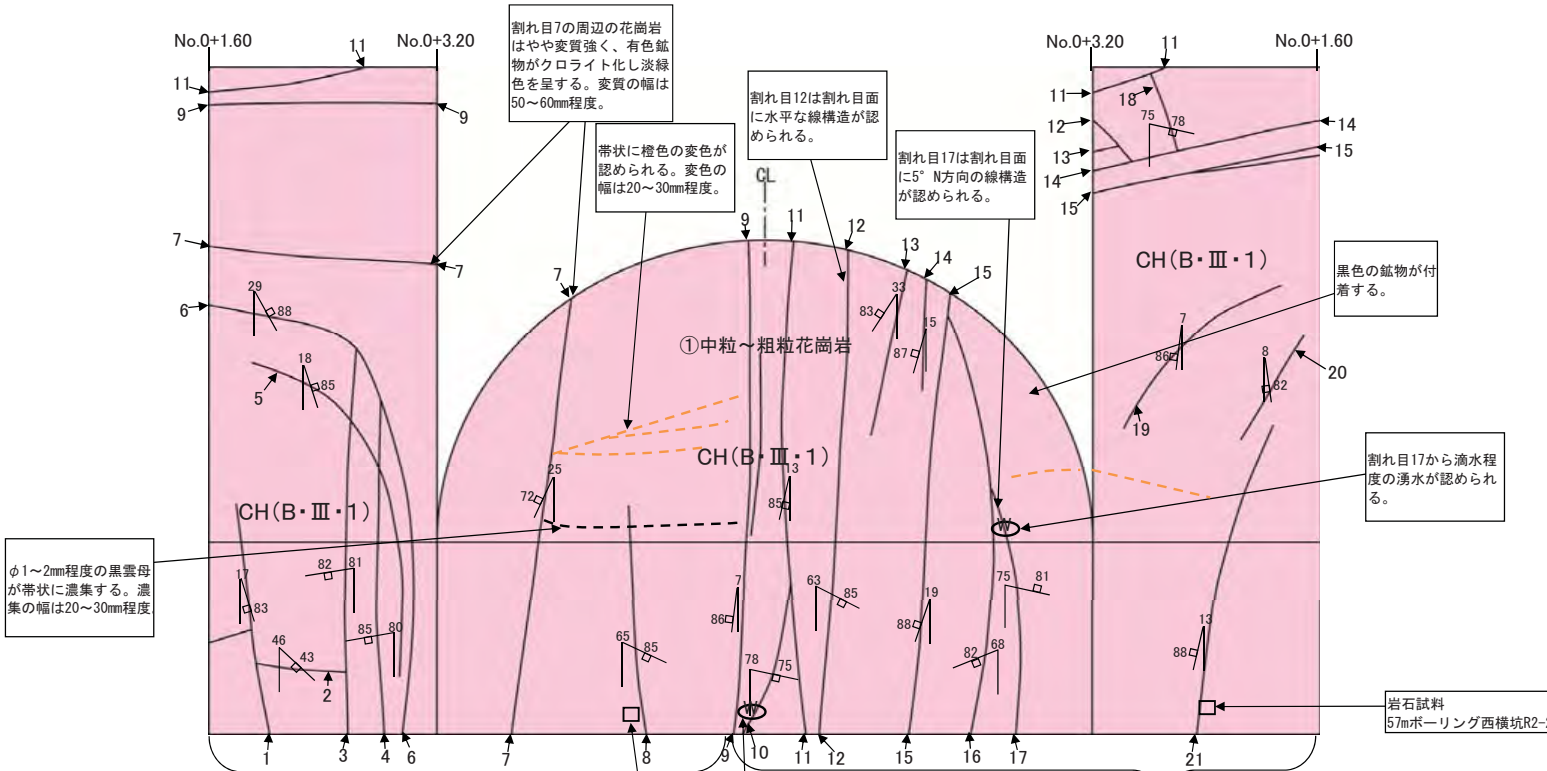
総括監督員	主任監督員	監督員	担当者

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体
現場代理人

凡例 花崗岩 割れ目 割れ目の走向傾斜 岩級区分境界 湧水 黒雲母の濃集 橙色の変色



スライス断面図



スケッチ



可視画像



岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -496.45m~-498.95m CH G.L. -498.95m~-500.2m CH
岩相	①中粒～粗粒花崗岩 (淡桃色、橙色、淡褐色、淡緑色)	RMR値	G.L. -496.45m~-498.95m 63 G.L. -498.95m~-500.2m 63
風化	α	岩石試料番号	57mボーリング西横坑R2-1 (花崗岩), 57mボーリング西横坑2-2 (花崗岩)
変質	1~2	採水試料番号	-
湧水	滴水		

特記事項

当箇所は57mボーリング西横坑であり、掘進方向はN81°E方向である。横坑観察は切羽から1.6m離れた場所より目視観察を実施した。岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径がφ2~7mm程度の中粒～粗粒花崗岩である。花崗岩の変質の程度は弱く、有色鉱物のほとんどが残存し、花崗岩は全体に淡桃色を呈する。割れ目の周辺の花崗岩には橙色や淡褐色、淡緑色の変色が認められる。割れ目の走向傾斜は、割れ目9付近から南側では、WNW~ENE走向高角度北傾斜とNE走向高角度北傾斜と南傾斜が主体で、他にNE走向中角度西傾斜やNNW走向高角度西傾斜、NNE走向高角度西傾斜が認められる。

割れ目9付近から北側の割れ目の走向傾斜は、WNW~ENE走向高角度北傾斜とNNE走向高角度西傾斜と東傾斜が主体で、他にNNE走向高角度西傾斜やNW走向高角度西傾斜が認められる。割れ目の介在物は、カルサイトとクロライト、淡緑色の粘土が認められる。割れ目12と17は割れ目面に線構造が認められたことから、せん断割れ目と判断した。湧水は鏡中央の割れ目10と鏡右側の割れ目17から滴水程度で認められた。岩級区分は、割れ目間隔が20~60cm程度で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることから、CH(B・Ⅲ・1)級と評価した。

A工区地質記載シート

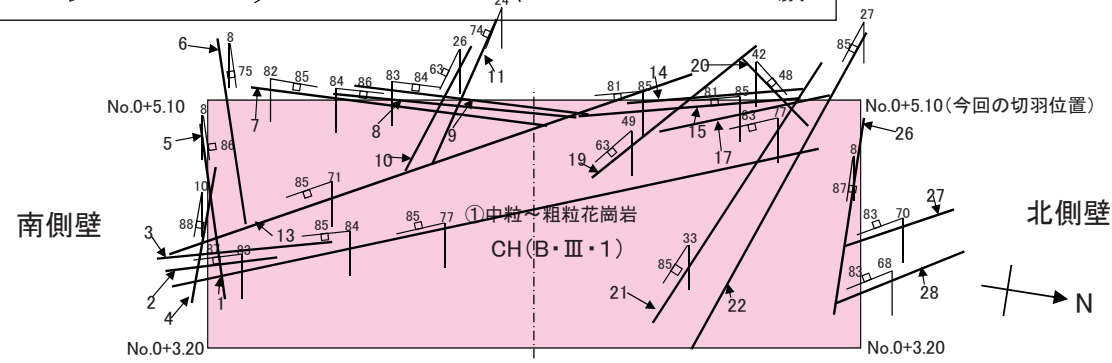
A5-請負-計測工(地質)-121126

シート番号	57mボーリング西横坑3	日時	2012/11/26 10:30~12:00	位置・深度	57mボーリング西横坑3 G.L. -496.5 m~G.L. -500.2 m	観察・撮影者	
-------	--------------	----	---------------------------	-------	---	--------	--

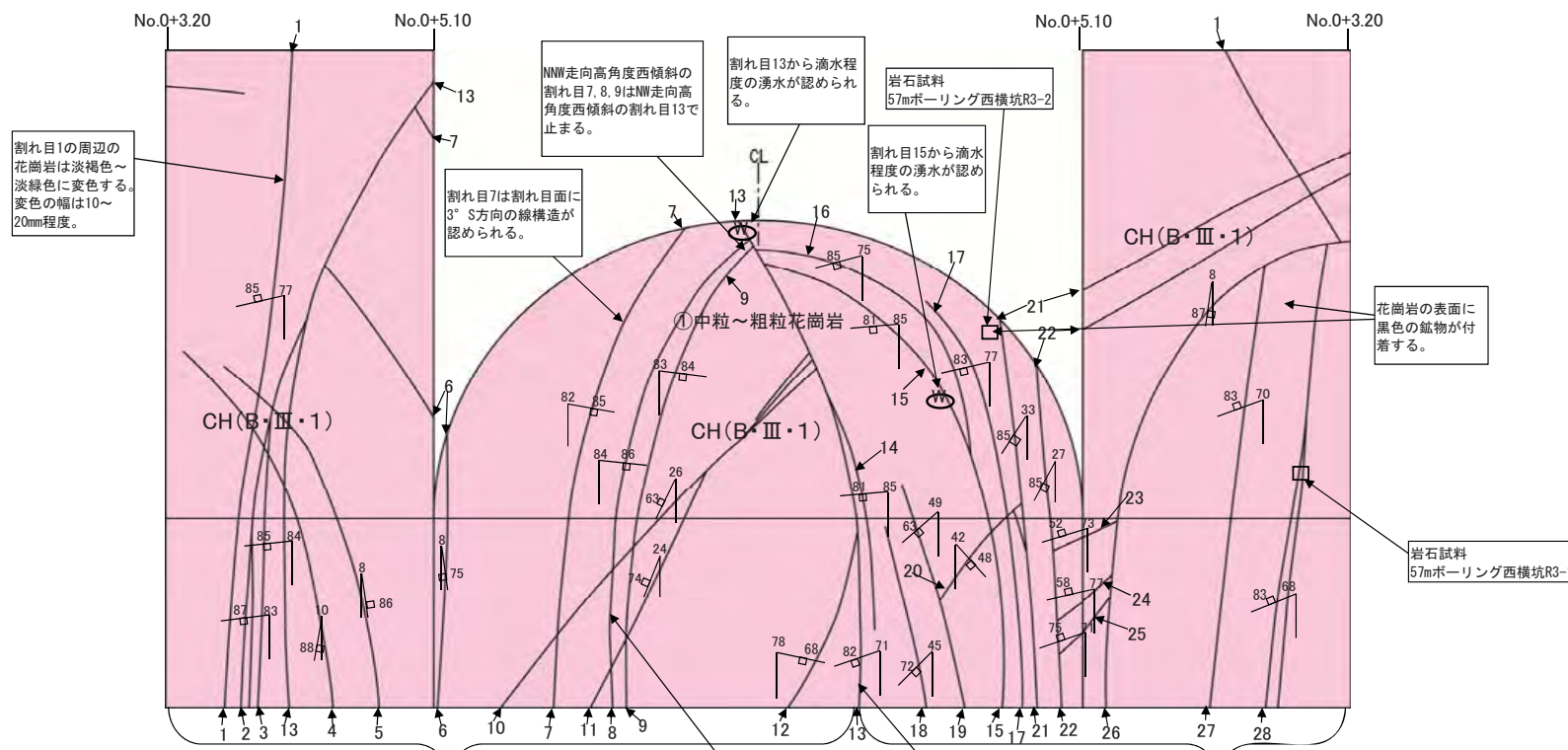
総括監督員	主任監督員	監督員	担当者

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体
現場代理人

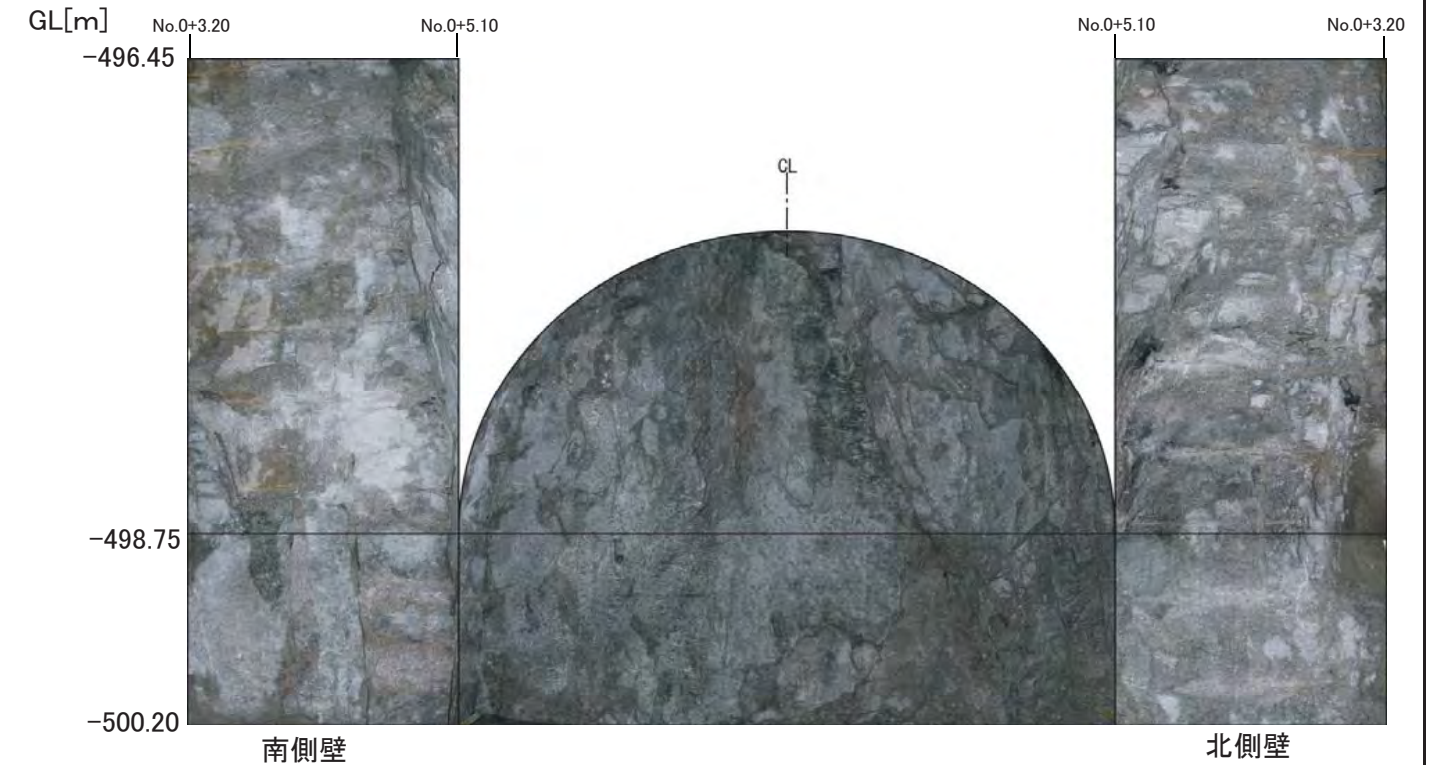
凡例	花崗岩	割れ目	割れ目の走向傾斜	岩級区分境界	湧水
----	-----	-----	----------	--------	----



スライス断面図



スケッチ



可視画像

割れ目1の周辺の花崗岩は淡褐色～淡緑色に変色する。変色の幅は10～20mm程度。

NNW走向高角度西傾斜の割れ目7, 8, 9はNW走向高角度西傾斜の割れ目13で止まる。

割れ目7は割れ目面に3° S方向の線構造が認められる。

割れ目13から滴水程度の湧水が認められる。

岩石試料 57mボーリング西横坑R3-2

割れ目15から滴水程度の湧水が認められる。

花崗岩の表面に黒色の鉱物が付着する。

岩石試料 57mボーリング西横坑R3-1

割れ目8は割れ目面に2° N方向の線構造が認められる。

割れ目13は割れ目面に5° S方向の線構造が認められる。

NNW～ENE走向高角度北傾斜と南傾斜の割れ目が30～60cm程度の間隔で、NNW走向高角度東傾斜と西傾斜の割れ目が20～30cm程度の間隔で認められる。割れ目はクロライトとカルサイト、淡緑色の粘土を介在する。花崗岩に変質はほとんど認められず、ほとんどの有色鉱物が残存している。花崗岩は全体に淡桃色を呈する。割れ目1, 2, 6の周辺の花崗岩は淡褐色～淡緑色を呈する。ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さ。

NNE～NNW走向高角度西傾斜の割れ目が20～30cm程度の間隔で、NW走向高角度西傾斜の割れ目が同じく20～30cm程度の間隔で認められる。他に、NE走向中角度西傾斜の割れ目20やNW走向中角度東傾斜の割れ目23, 24、ENE走向高角度南傾斜の割れ目26、NW走向高角度東傾斜の割れ目25, 27, 28が認められる。割れ目にはクロライト、カルサイト、淡緑色の粘土を介在する。花崗岩の変質の程度は弱く、黒雲母などの有色鉱物の一部がクロライトに置き換わる程度で、花崗岩は全体に淡桃色～橙色を呈する。ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さ。

岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -496.45m~-498.95m CH G.L. -498.95m~-500.2m CH
岩相	①中粒～粗粒花崗岩 (淡桃色、橙色、淡褐色、淡緑色)	RMR値	G.L. -496.45m~-498.95m 58 G.L. -498.95m~-500.2m 64
風化	α	岩石試料番号	57mボーリング西横坑R3-1 (花崗岩), 57mボーリング西横坑R3-2 (花崗岩)
変質	1~2	採水試料番号	-
湧水	滴水		

特記事項

当箇所は57mボーリング西横坑であり、掘進方向はN81° E方向である。横坑観察は切羽から1.9m離れた場所より目視観察を実施した。岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径がφ2~7mm程度の中粒～粗粒花崗岩である。花崗岩の変質の程度は、割れ目13付近から南側では非常に弱く、有色鉱物のほとんどが残存し、花崗岩は全体に淡桃色を呈する。割れ目の周辺の花崗岩には淡褐色～淡緑色の変色が認められる程度。割れ目13付近から北側では、変質の程度は弱く、有色鉱物の一部がクロライトに置き換わる程度で、花崗岩は淡桃色～橙色を呈する。割れ目の周辺には淡褐色～淡緑色の変色が認められる。割れ目の走向傾斜は、割れ目13付近から南側では、NNW～ENE走向高角度北傾斜と南傾斜およびNNW走向高角度東傾斜と西傾斜の割れ目が認められる。割れ目13付近から北側では、NNE～NNW走向高角度西傾斜とNW走向高角度西傾斜が主体で、他にNE走向中角度西傾斜やNW走向中角度東傾斜、ENE走向高角度南傾斜およびNNW走向高角度東傾斜が認められる。

割れ目の介在物は、カルサイトとクロライト、淡緑色の粘土が認められる。割れ目7と8, 13は割れ目面に線構造が認められたことから、せん断割れ目と判断した。湧水は天端付近の割れ目13と鏡右側の割れ目15から滴水程度で認められた。岩級区分は、割れ目間隔が20～60cm程度で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることから、CH (B・Ⅲ・1) 級と評価した。

A工区地質記載シート

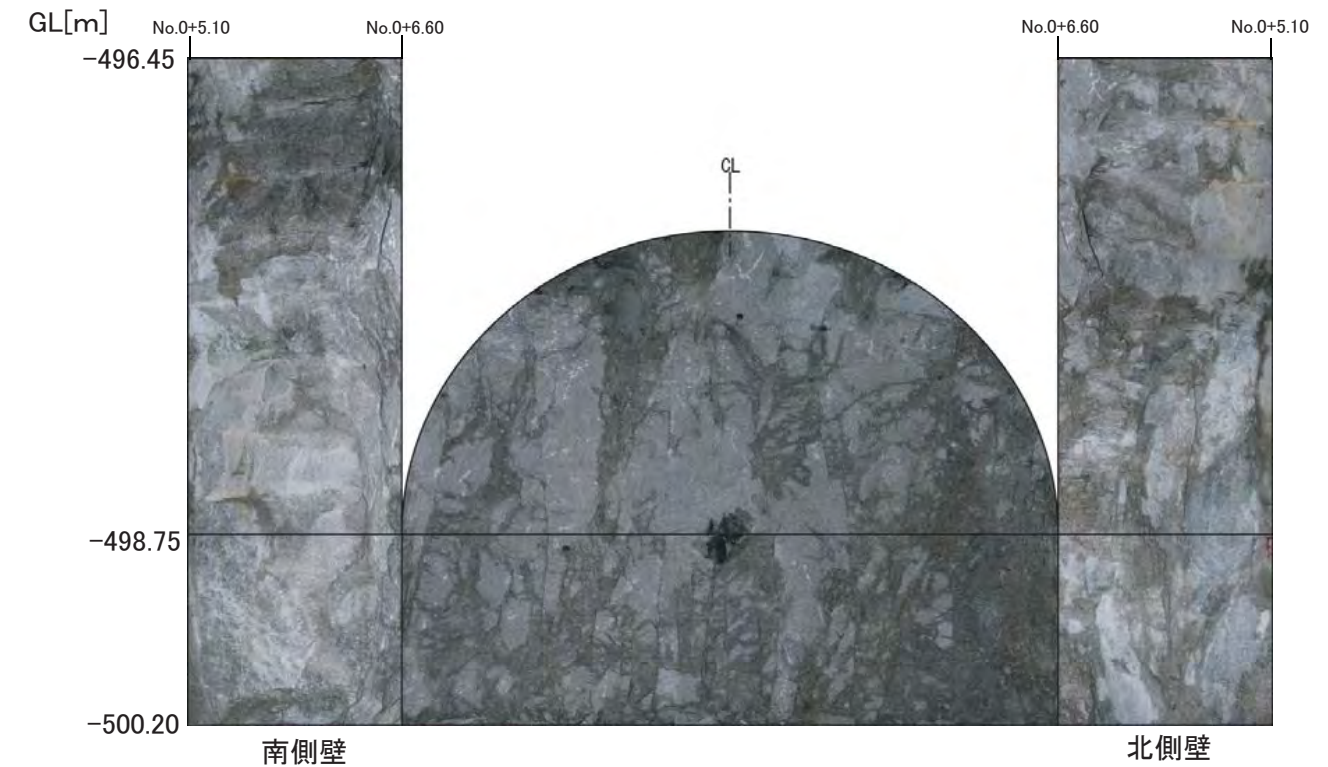
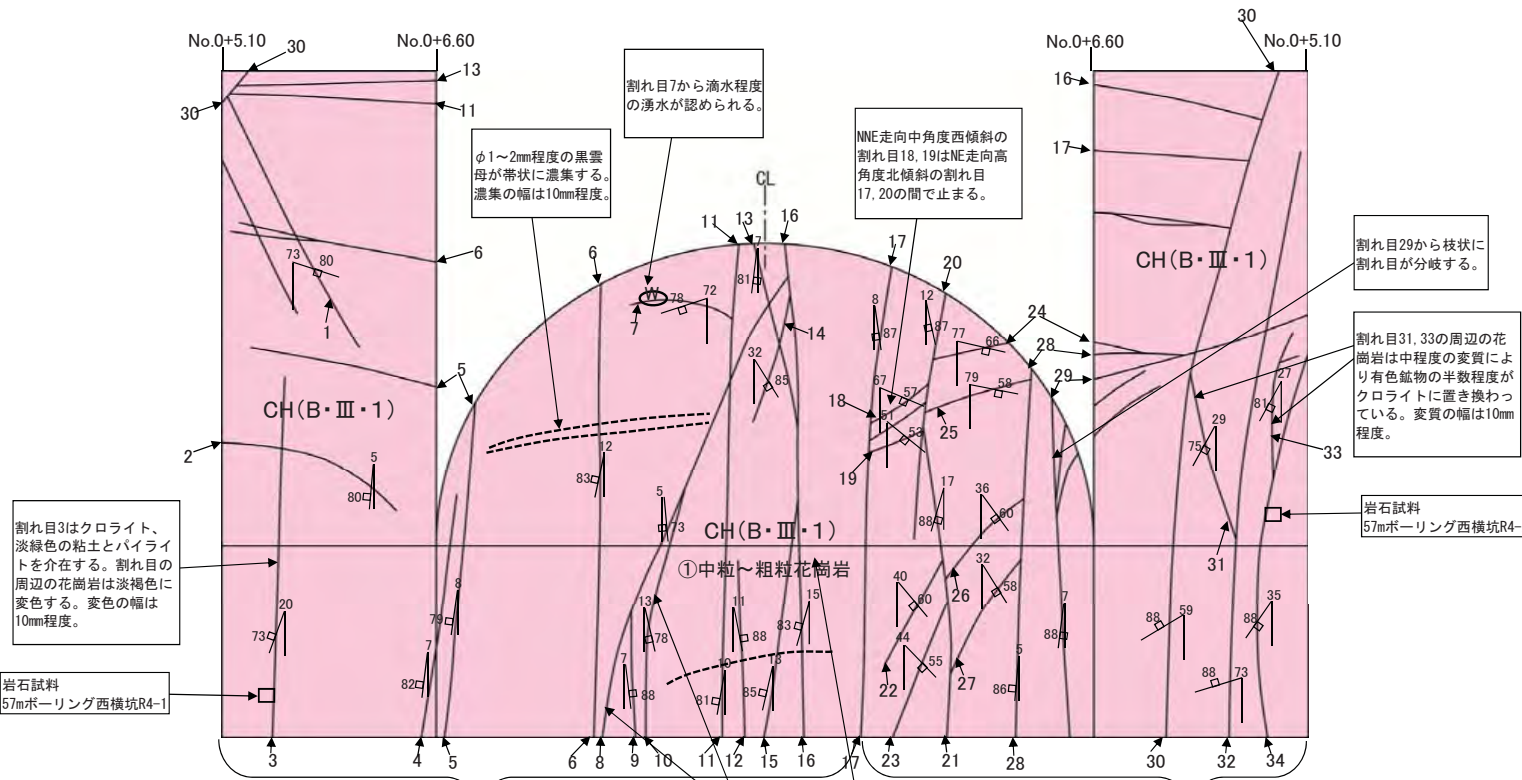
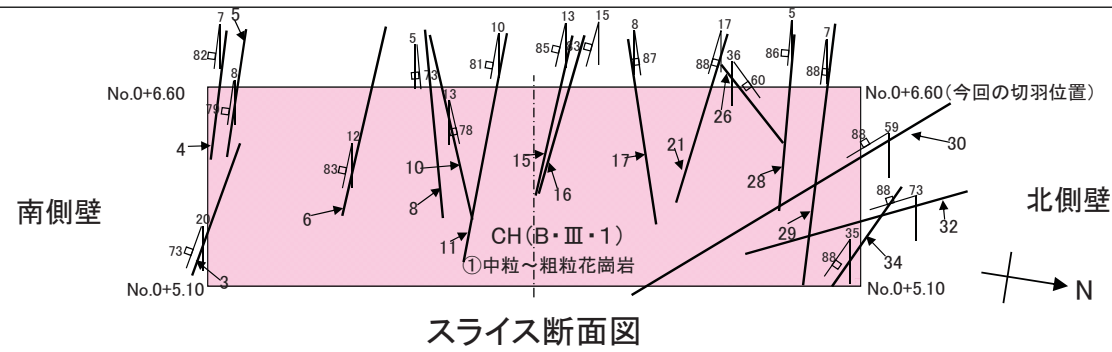
A5-請負-計測工(地質)-121127

シート番号	57mボーリング西横坑4	日時	2012/11/27 15:30~17:00	位置・深度	57mボーリング西横坑4 G.L. -496.5 m~G.L. -500.2 m	観察・撮影者	
-------	--------------	----	---------------------------	-------	---	--------	--

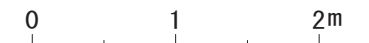
総括監督員	主任監督員	監督員	担当者

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体
現場代理人

凡例	花崗岩	割れ目	割れ目の走向傾斜	岩級区分境界	湧水	黒雲母の濃集
----	-----	-----	----------	--------	----	--------



可視画像



スケッチ

岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -496.45m~-498.95m CH G.L. -498.95m~-500.2m CH
岩相	①中粒～粗粒花崗岩 (淡桃色、橙色、淡褐色、淡緑色)	RMR値	G.L. -496.45m~-498.95m 58 G.L. -498.95m~-500.2m 64
風化	α	岩石試料番号	57mボーリング西横坑R4-1 (花崗岩), 57mボーリング西横坑R4-2 (花崗岩)
変質	1~2	採水試料番号	-
湧水	滴水		

特記事項

当箇所は57mボーリング西横坑であり、掘進方向はN81°E方向である。横坑観察は切羽から1.5m離れた場所より目視観察を実施した。
 岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径がφ2~7mm程度の中粒～粗粒花崗岩である。花崗岩の変質の程度は、割れ目17付近から南側では非常に弱く、有色鉱物のほとんどが残存し、花崗岩は全体に淡桃色を呈する。割れ目の周辺の花崗岩には橙色～淡褐色の変色が認められる程度である。割れ目17付近から北側では、変質の程度は弱く、有色鉱物の一部がクロライトに置き換わる程度で、花崗岩は淡桃色～橙色を呈する。割れ目の周辺には淡褐色～淡緑色の変色が認められる。
 割れ目の走向傾斜は、割れ目17付近から南側では、WNW~ENE走向高角度北傾斜とENE走向高角度南傾斜が主体で、他にNNE走向高角度西傾斜、NNW走向高角度西傾斜、NE走向高角度北傾斜が認められる。

割れ目17付近から北側の割れ目の走向傾斜は、ENE~WNW走向高角度北傾斜と南傾斜およびNE走向中~高角度北~西傾斜が主体で、他にNNE走向中~高角度西傾斜やNW走向高角度東傾斜が認められる。
 割れ目の介在物は、カルサイトとクロライト、淡緑色の粘土およびパイライトが認められる。
 湧水は鏡中央の割れ目7から滴水程度で認められた。
 岩級区分は、割れ目間隔が20~60cm程度で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることから、CH(B・Ⅲ・1)級と評価した。

A工区地質記載シート

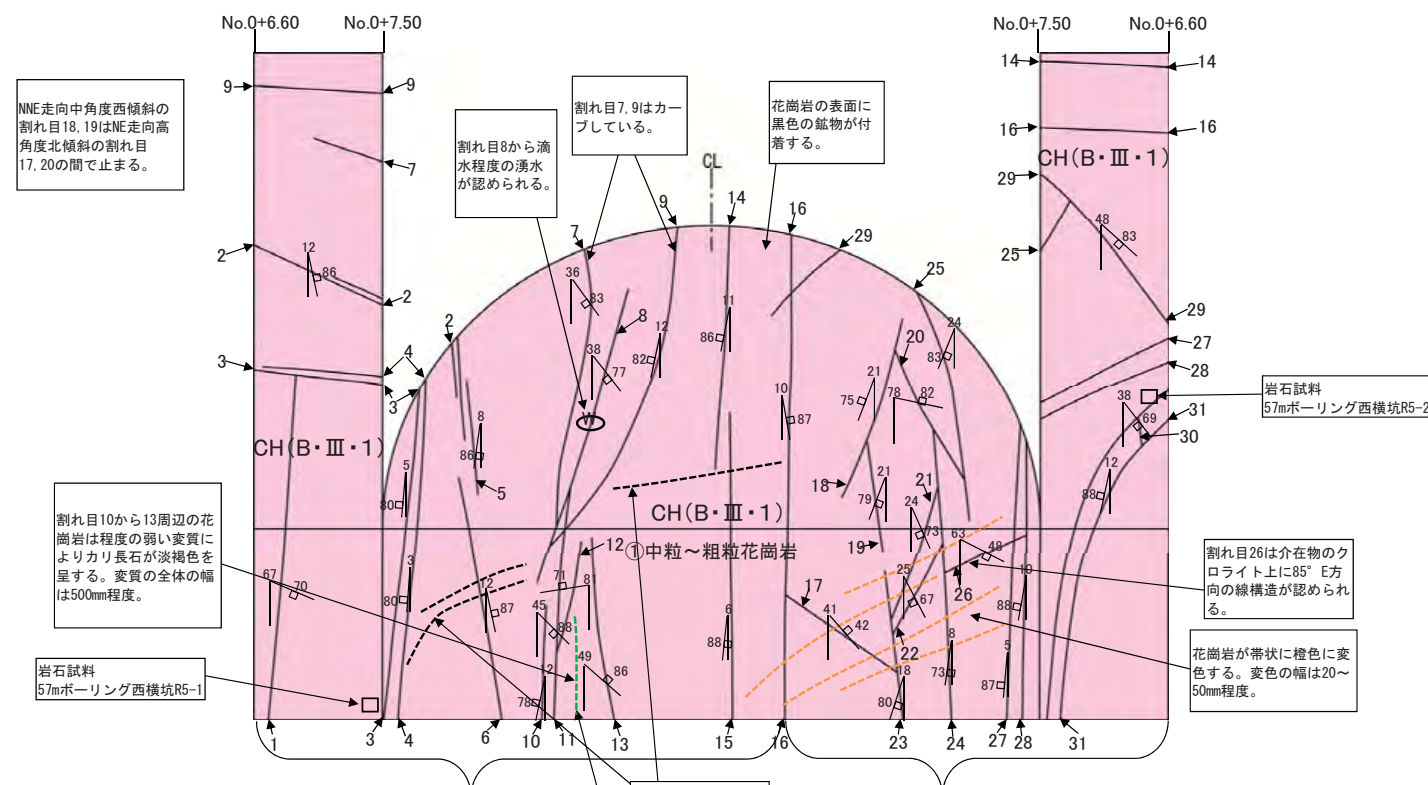
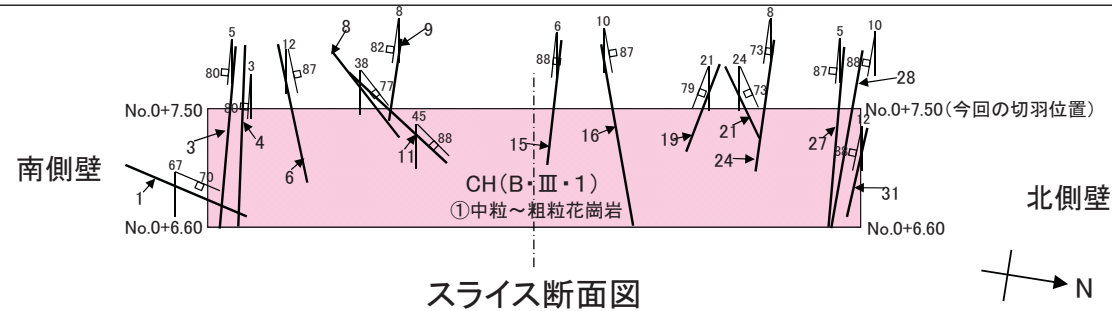
A5-請負-計測工(地質)-121222

シート番号	57mボーリング西横坑5	日時	2012/12/22 15:30~17:00	位置・深度	57mボーリング西横坑5 G.L. -496.5 m~G.L. -500.2 m	観察・撮影者	
-------	--------------	----	---------------------------	-------	---	--------	--

総括監督員	主任監督員	監督員	担当者

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体
現場代理人

凡例	花崗岩	割れ目	70° 割れ目の走向傾斜	岩級区分境界	湧水	黒雲母の濃集	橙色の変色	クロライト脈
----	-----	-----	--------------	--------	----	--------	-------	--------



岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -496.45m~-498.95m CH G.L. -498.95m~-500.2m CH
岩相	①中粒～粗粒花崗岩 (淡桃色、橙色、淡褐色、淡緑色)	RMR値	G.L. -496.45m~-498.95m 66 G.L. -498.95m~-500.2m 72
風化	α	岩石試料番号	57mボーリング西横坑R5-1 (花崗岩), 57mボーリング西横坑R5-2 (花崗岩)
変質	1~2	採水試料番号	-
湧水	滴水		

特記事項

当箇所は57mボーリング西横坑であり、掘進方向はN81°E方向である。横坑観察は切羽から0.9m離れた場所より目視観察を実施した。
岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径がφ2~7mm程度の中粒～粗粒花崗岩である。花崗岩の変質の程度は、割れ目16付近から南側では非常に弱く、有色鉱物のほとんどが残存し、花崗岩は全体に淡桃色を呈する。割れ目の周辺の花崗岩には橙色～淡褐色の変色が認められる。割れ目16付近から北側では、変質の程度は弱く、有色鉱物の一部がクロライトに置き換わる程度で、花崗岩は淡桃色～淡緑色を呈する。割れ目の周辺には淡褐色の変色が認められる。
割れ目の走向傾斜は、WNW~ENE走向高角度北傾斜と南傾斜の割れ目とNNE~NE走向高角度東傾斜の割れ目が認められる。他に、NW走向高角度西傾斜の割れ目12、NNE走向高角度西傾斜の割れ目20やNNE走向中角度東傾斜の割れ目26が認められる。

割れ目の介在物は、カルサイトとクロライト、淡緑色の粘土が認められる。割れ目26は割れ目介在物のクロライト上に線構造が認められたことから、せん断割れ目として記載した。
湧水は鏡中央の割れ目8から滴水程度で認められた。
岩級区分は、割れ目間隔が20~60cm程度で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることから、CH(B・Ⅲ・1)級と評価した。

A工区地質記載シート

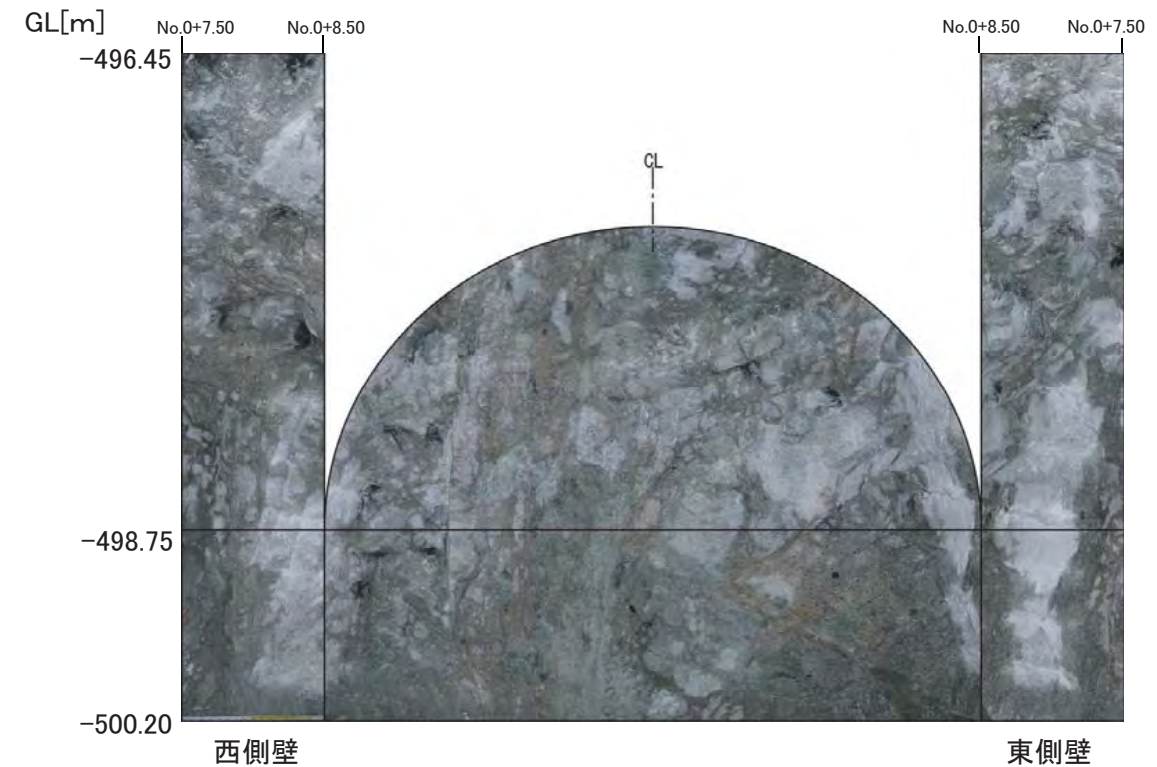
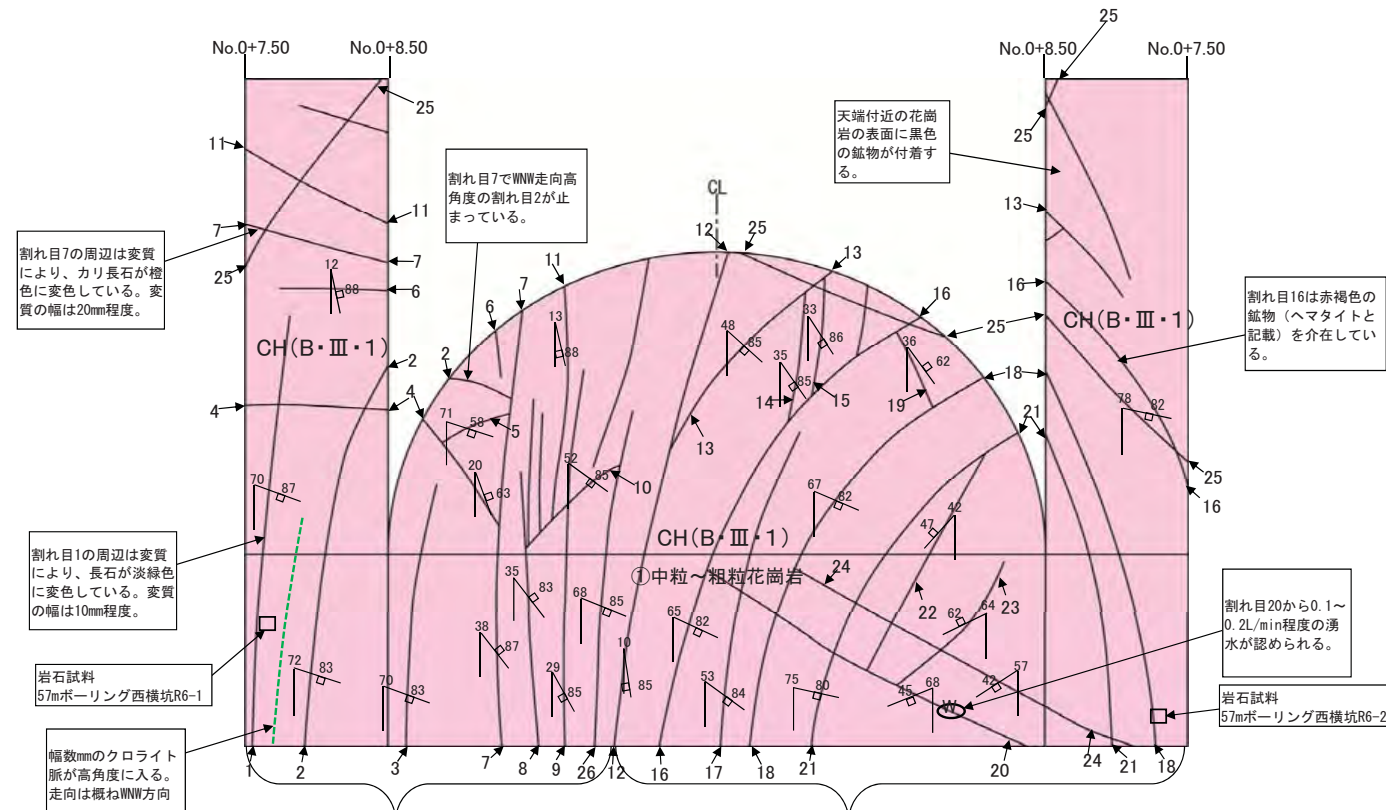
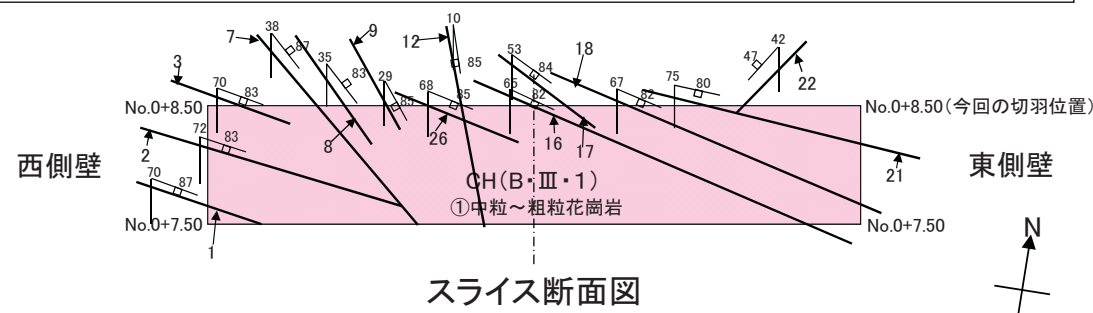
A5-請負-計測工(地質)-121225

シート番号	57mボーリング西横坑6	日時	2012/12/25 9:30~11:00	位置・深度	57mボーリング西横坑6 G.L. -496.5 m~G.L. -500.2 m	観察・撮影者	
-------	--------------	----	--------------------------	-------	---	--------	--

総括監督員	主任監督員	監督員	担当者

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体
現場代理人

凡例	花崗岩	割れ目	割れ目の走向傾斜	岩級区分境界	湧水	クロライト脈
----	-----	-----	----------	--------	----	--------



可視画像



スケッチ

WNW走向高角度南傾斜の割れ目が20~40cm程度の間隔で、NW走向高角度北~東傾斜の割れ目が20~30cm程度の間隔で認められる。他に、WNW走向中角度南傾斜の割れ目5やNW走向高角度西傾斜の割れ目9, 11, 12が認められる。割れ目はクロライトとカルサイトを介在する。花崗岩に変質はほとんど認められず、有色鉱物はほぼ残存している。花崗岩は全体に淡桃色を呈する。一部の割れ目周辺は程度の弱い変質により、花崗岩が橙色や淡緑色を呈する。ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さ。

WNW走向高角度南傾斜の割れ目が20~30cm程度の間隔で認められる。他に、NW走向高角度南~西傾斜の割れ目13, 14, 15やNW走向高角度北傾斜の割れ目19やNE走向中角度南傾斜の割れ目20, 24やNE走向中~高角度西~北走向の割れ目22, 23が認められる。割れ目にはクロライト、カルサイト、淡緑色の粘土、赤褐色の鉱物(ヘマタイトと記載)を介在する。花崗岩の変質はほとんど認められず、黒雲母などの有色鉱物は残存している。花崗岩は全体に淡桃色を呈する。ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さ。

岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -496.45m~-498.95m G.L. -498.95m~-500.2m	CH CH
岩相	①中粒~粗粒花崗岩 (淡桃色、橙色、淡緑色)	RMR値	G.L. -496.45m~-498.95m G.L. -498.95m~-500.2m	64 58
風化	α	岩石試料番号	57mボーリング西横坑R6-1 (花崗岩), 57mボーリング西横坑R6-2 (花崗岩)	
変質	1	採水試料番号	-	
湧水	0.1~0.2L/min			

特記事項

当箇所は57mボーリング西横坑であり、掘進方向はN9° W方向である。横坑観察は切羽から1.0m離れた場所より目視観察を実施した。岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径がφ2~8mm程度の中粒~粗粒花崗岩である。花崗岩に変質はほとんど認められず、有色鉱物のほとんどが残存し、花崗岩は全体に淡桃色を呈する。一部の割れ目の周辺ではカリ長石の橙色化や長石の淡緑色化が認められる。割れ目の走向傾斜は、割れ目12付近から西側では、WNW走向高角度南傾斜の割れ目とNW走向高角度北~東傾斜の割れ目が主体で認められ、他にWNW走向中角度南傾斜やNW走向高角度西傾斜が認められる。割れ目12付近から東側では、WNW走向高角度南傾斜の割れ目が主体で、他にNW走向高角度南~西傾斜やNW走向高角度北傾斜、NE走向中角度南傾斜、NE走向中~高角度西~北走向が認められる。

割れ目の介在物は、カルサイトとクロライト、淡緑色の粘土、赤褐色の鉱物(ヘマタイトと記載)が認められる。湧水は鏡中央の割れ目20から0.1~0.2L/min程度で認められた。岩級区分は、割れ目間隔が20~40cm程度で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることから、CH(B・Ⅲ・1)級と評価した。

A工区地質記載シート

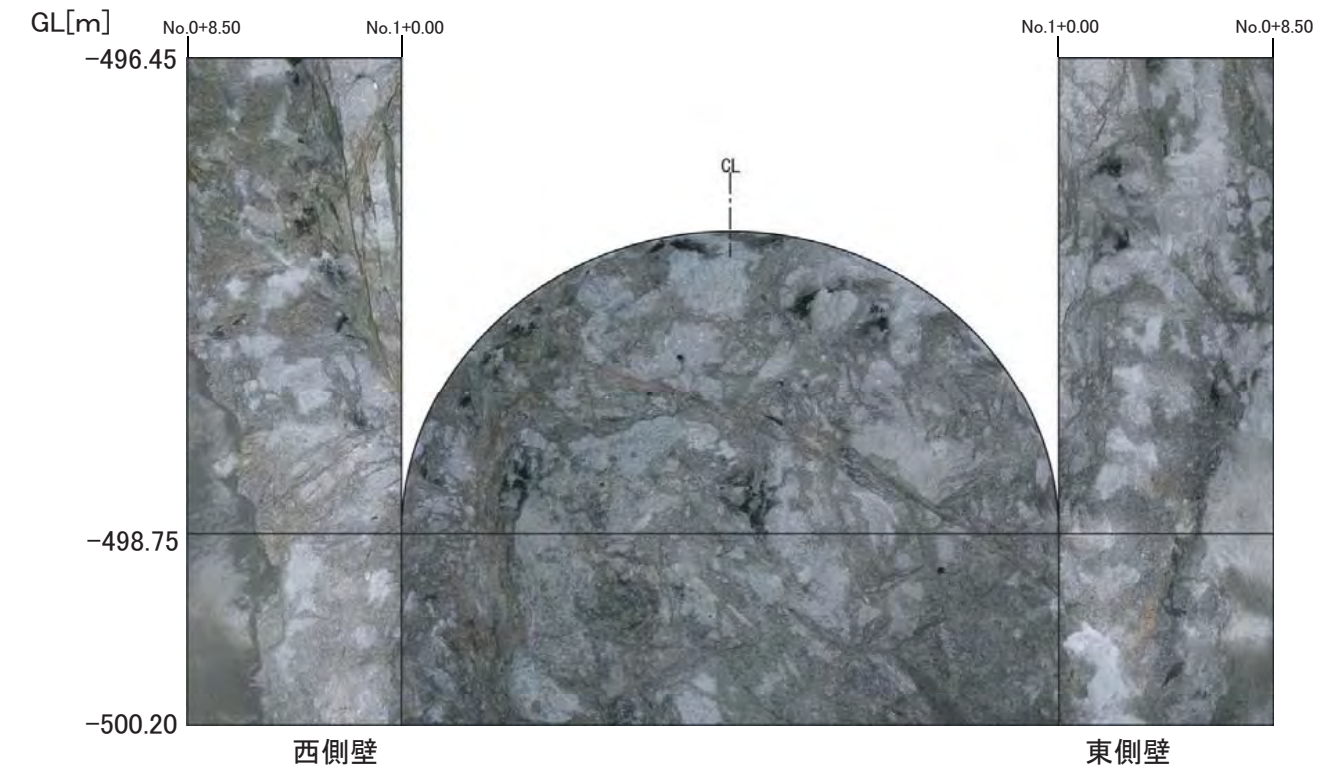
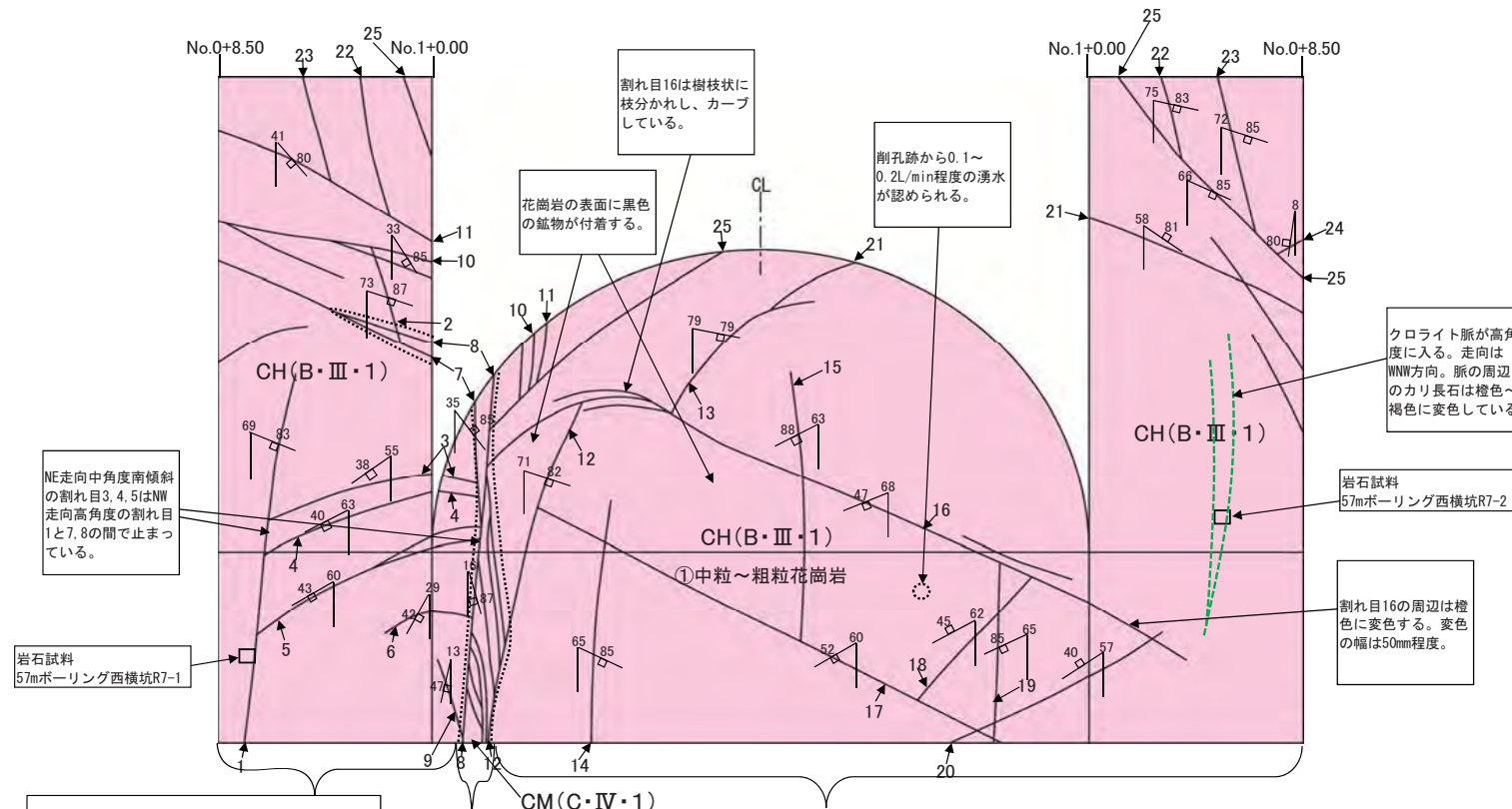
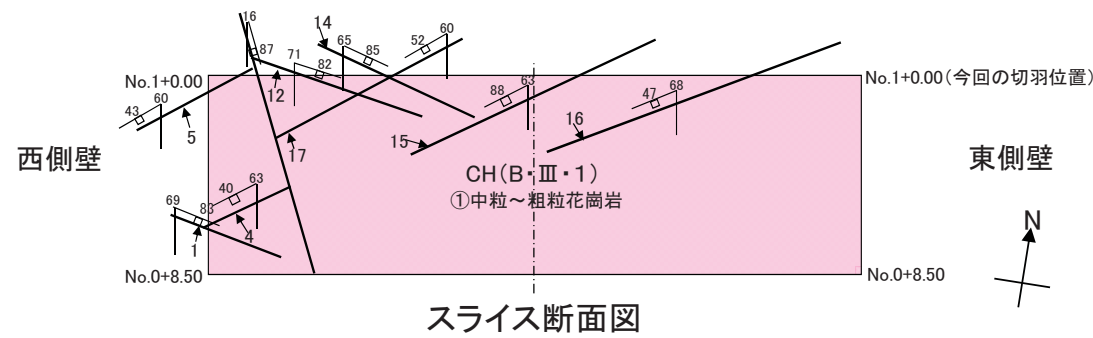
A5-請負-計測工(地質)-121226

シート番号	57mボーリング西横坑7	日時	2012/12/26 15:30~17:00	位置・深度	57mボーリング西横坑7 G.L. -496.5 m~G.L. -500.2 m	観察・撮影者	
-------	--------------	----	---------------------------	-------	---	--------	--

総括監督員	主任監督員	監督員	担当者

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体
現場代理人

凡例	花崗岩	割れ目	割れ目の走向傾斜	岩級区分境界	湧水	クロライト脈
----	-----	-----	----------	--------	----	--------



NE走向中角度南傾斜の割れ目3, 4, 5はNW走向高角度の割れ目1と7, 8の間で止まっている。

岩石試料 57mボーリング西横坑R7-1

割れ目16は樹枝状に枝分かれし、カーブしている。

花崗岩の表面に黒色の鉱物が付着する。

割れ目跡から0.1~0.2L/min程度の湧水が認められる。

クロライト脈が高角度に入る。走向はWNW方向。脈の周辺のカリ長石は橙色~褐色に変色している。

岩石試料 57mボーリング西横坑R7-2

割れ目16の周辺は橙色に変色する。変色の幅は50mm程度。

WNW~NW走向高角度南傾斜の割れ目が20~30cm程度の間隔で、NE走向中角度東~南傾斜の割れ目が20cm程度の間隔で認められる。割れ目はカルサイトを介する。花崗岩に変質はほとんど認められず、有色鉱物はほぼ残存している。花崗岩は全体に淡桃色を呈する。ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さ。

NW走向高角度の割れ目7, 8は幅3~5mmの淡緑色の粘土を介する。割れ目周辺の花崗岩は割れ目に近い箇所では淡緑色に、割れ目から離れて橙色に変色する。割れ目周辺はやや軟質で、平行な割れ目が6~10cm程度の間隔で入る。

WNW走向高角度南傾斜の割れ目が20~30cm程度の間隔で、NE走向中角度南傾斜の割れ目が30~60cm程度で認められる。他に、NW走向高角度南~西傾斜の割れ目10, 11やNW走向高角度北傾斜の割れ目21, 25やNE走向高角度南傾斜の割れ目15, 19やNE走向中角度北傾斜の割れ目18, 20が認められる。割れ目にはクロライト、カルサイト、淡緑色の粘土を介する。花崗岩の変質はほとんど認められず、黒雲母などの有色鉱物は残存している。花崗岩は全体に淡桃色を呈する。ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さ。

スケッチ

岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -496.45m~-498.95m CH/CM G.L. -498.95m~-500.2m CH/CM
岩相	①中粒~粗粒花崗岩 (淡桃色、橙色、淡緑色)	RMR値	G.L. -496.45m~-498.95m 64 G.L. -498.95m~-500.2m 64
風化	α	岩石試料番号	57mボーリング西横坑R7-1 (花崗岩), 57mボーリング西横坑R7-2 (花崗岩)
変質	1~3	採水試料番号	-
湧水	無し		

特記事項

当箇所は57mボーリング西横坑であり、掘進方向はN9°W方向である。横坑観察は切羽から1.5m離れた場所より目視観察を実施した。

岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径がφ2~7mm程度の中粒~粗粒花崗岩である。花崗岩に変質はほとんど認められず、有色鉱物のほとんどが残存し、花崗岩は全体に淡桃色を呈する。割れ目7~8の周辺ではカリ長石の橙色化や長石の淡緑色化、有色鉱物の緑泥石化が認められる。

割れ目の走向傾斜は、割れ目7付近から西側では、WNW~NW走向高角度南傾斜とNE走向中角度東~南傾斜が主体で認められる。

割れ目7付近から東側では、WNW走向高角度南傾斜とNE走向中角度南傾斜が主体で、他にNW走向高角度南~西傾斜やNW走向高角度北傾斜やNE走向高角度南傾斜、NE走向中角度北傾斜が認められる。

割れ目の介在物は、カルサイトとクロライト、淡緑色の粘土が認められる。湧水は認められなかった。

岩級区分は、切羽の大部分では割れ目間隔が20~60cm程度で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることから、CH(B・Ⅲ・1)級と評価した。また、割れ目7の周辺では割れ目間隔が6~10cm程度で、ハンマーの打撃で金属音を発する程度の硬さであることから、CM(C・Ⅳ・1)級と評価した。

A工区地質記載シート

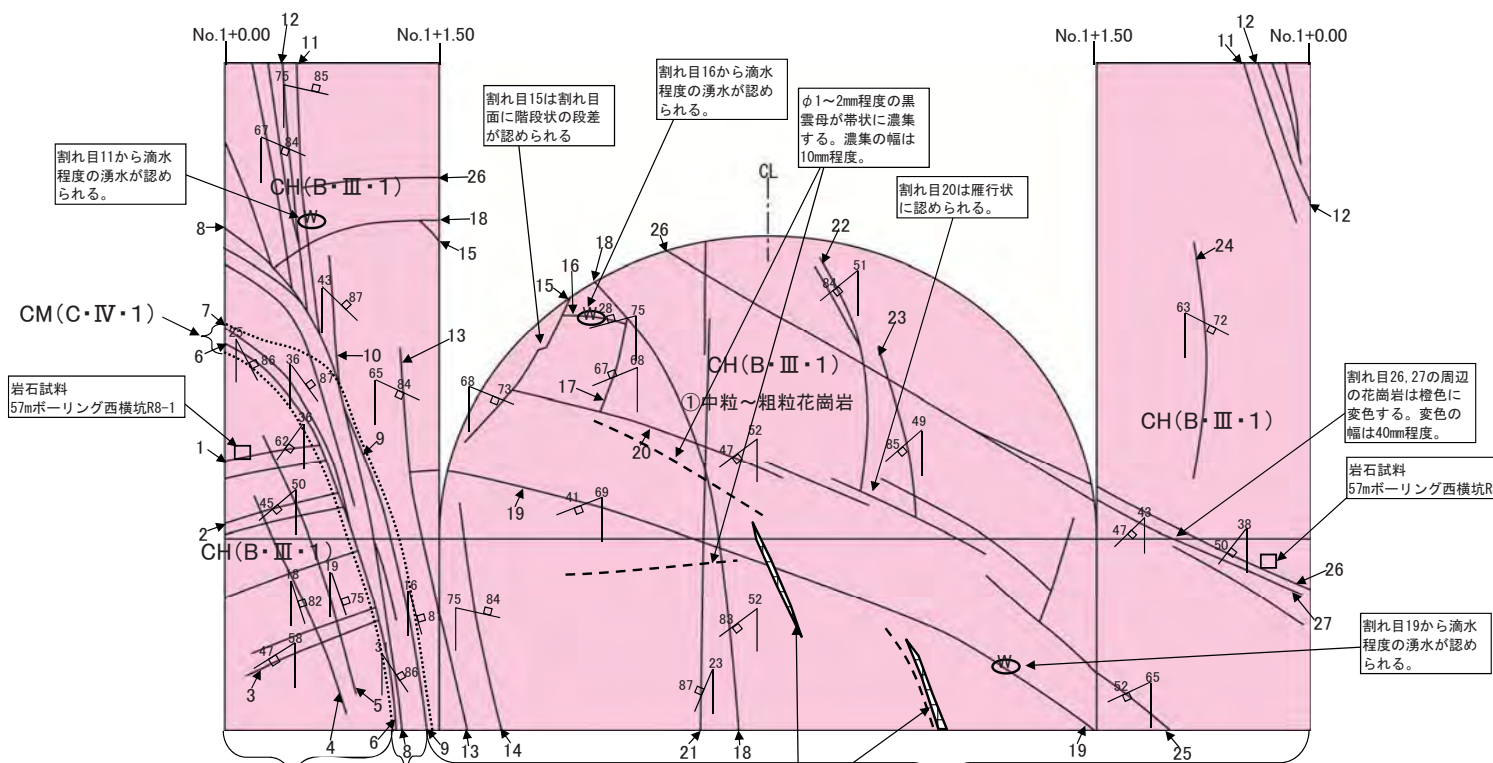
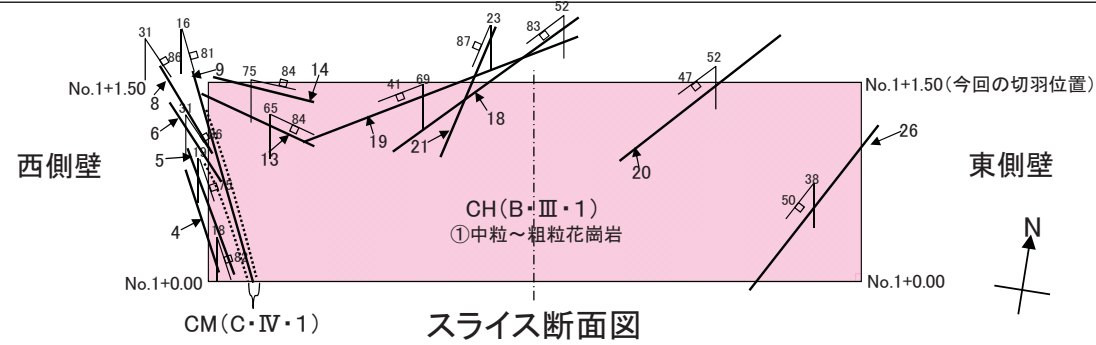
A5-請負-計測工(地質)-130108

シート番号	57mボーリング西横坑8	日時	2013/1/8 10:00~11:30	位置・深度	57mボーリング西横坑8 G.L. -496.5 m~G.L. -500.2 m	観察・撮影者	
-------	--------------	----	-------------------------	-------	---	--------	--

総括監督員	主任監督員	監督員	担当者

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体
現場代理人

凡例	花崗岩	割れ目	割れ目の走向傾斜	岩級区分境界	湧水	黒雲母の濃集	ペグマタイト
----	-----	-----	----------	--------	----	--------	--------

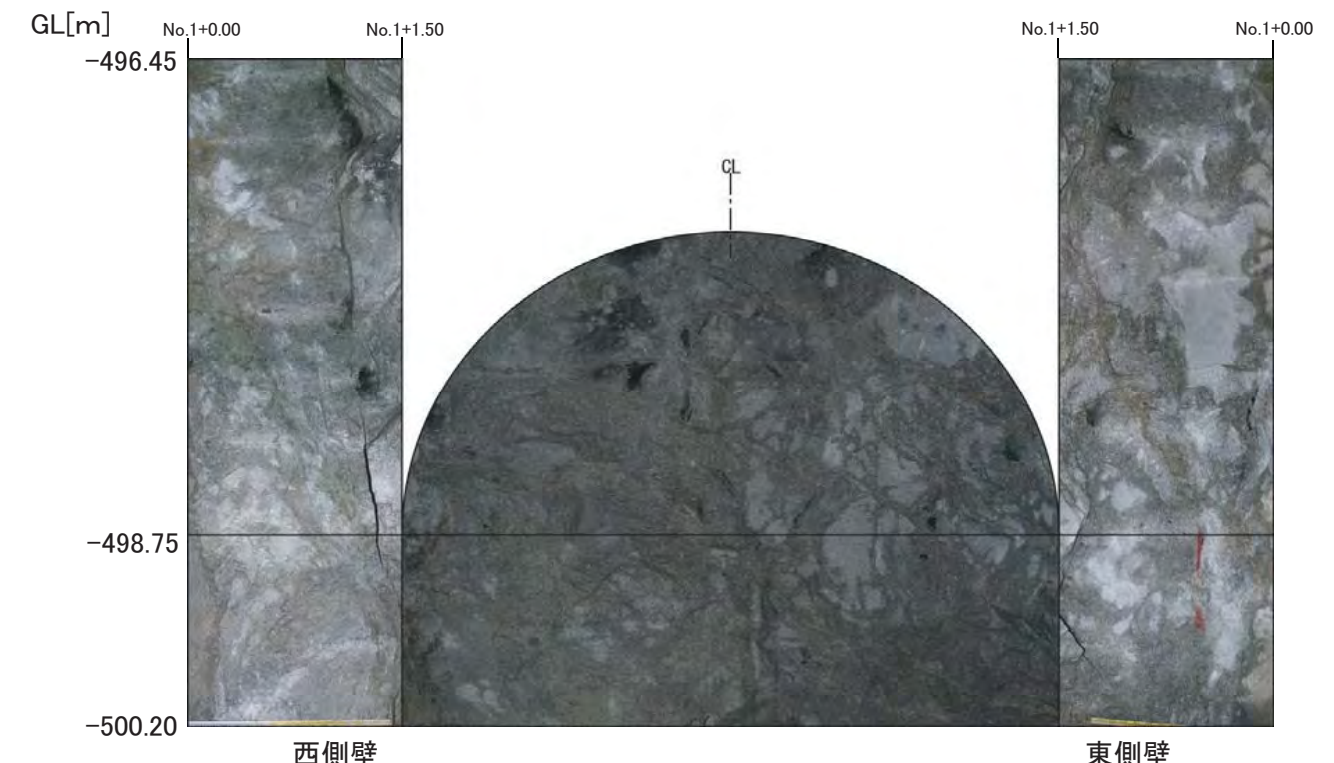


NW走向高角度東傾斜の割れ目が20~30cm程度の間隔で、NE走向中角度東~南傾斜の割れ目が20cm程度の間隔で認められる。割れ目にはカルサイトを介在する。花崗岩には程度の弱い変質が認められ、有色鉱物の一部がクロライトに置き換わっている。花崗岩は全体に淡桃色~淡褐色を呈する。ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さ。

NW走向高角度東傾斜の割れ目9は幅3~5mmの淡緑色の粘土を介在する。割れ目周辺の花崗岩は、有色鉱物の半数以上がクロライトに置き換わり、淡緑色に変色する。割れ目周辺はやや軟質で、ハンマーの打撃で金属音を発する程度の硬さ。

φ10~20mm程度の石英とカリ長石からなるペグマタイト。

WNW走向高角度南傾斜と北傾斜の割れ目が20~30cm程度の間隔で、NE走向中角度南~東傾斜の割れ目が30~60cm程度の間隔で認められる。他に、NE走向低角度北傾斜の割れ目16やNE走向高角度北傾斜の割れ目17やNE走向高角度東傾斜の割れ目18, 22, 23やNW走向高角度西傾斜の割れ目21が認められる。割れ目にはクロライト、カルサイトを介在する。花崗岩の変質はほとんど認められず、黒雲母などの有色鉱物は残存している。花崗岩は全体に淡桃色を呈する。ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さ。



可視画像

岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -496.45m~-498.95m CH/CM G.L. -498.95m~-500.2m CH/CM
岩相	①中粒~粗粒花崗岩 (淡桃色、橙色、淡緑色)	RMR値	G.L. -496.45m~-498.95m 58 G.L. -498.95m~-500.2m 58
風化	α	岩石試料番号	57mボーリング西横坑R8-1 (花崗岩), 57mボーリング西横坑R8-2 (花崗岩)
変質	1~3	採水試料番号	-
湧水	滴水程度		

特記事項

当箇所は57mボーリング西横坑であり、掘進方向はN9° W方向である。横坑観察は切羽から1.5m離れた場所より目視観察を実施した。岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径がφ2~7mm程度の中粒~粗粒花崗岩である。花崗岩の変質は、割れ目6付近から西側では、程度の弱い変質により一部の有色鉱物がクロライトに置き換わっている。また、割れ目6付近から割れ目9の間は、中程度の変質により、有色鉱物の半数程度がクロライトに置き換わり、花崗岩は淡緑色を呈する。割れ目9から東側は、ほとんど変質が認められず、有色鉱物のほとんどが残存し、花崗岩は全体に淡桃色を呈する。割れ目の走向傾斜は、割れ目9付近から西側では、NW走向高角度東傾斜とNE走向中角度東~南傾斜の割れ目が主体で認められる。割れ目9付近から東側では、WNW走向高角度南傾斜と北傾斜と、NE走向中角度南~東傾斜が主体で、他にNE走向低角度北傾斜やNE走向高角度北傾斜やNE走向高角度東傾斜やNW走向高角度西傾斜が認められる。

割れ目の介在物は、カルサイトとクロライト、淡緑色の粘土が認められる。湧水は割れ目11, 16, 19から滴水程度で認められた。岩級区分は、切羽の大部分では割れ目間隔が20~60cm程度で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることから、CH(B・Ⅲ・1)級と評価した。また、割れ目6付近から割れ目9付近の花崗岩は、割れ目間隔が6~10cm程度で、ハンマーの打撃で金属音を発する程度の硬さであることから、CM(C・Ⅳ・1)級と評価した。

A工区地質記載シート

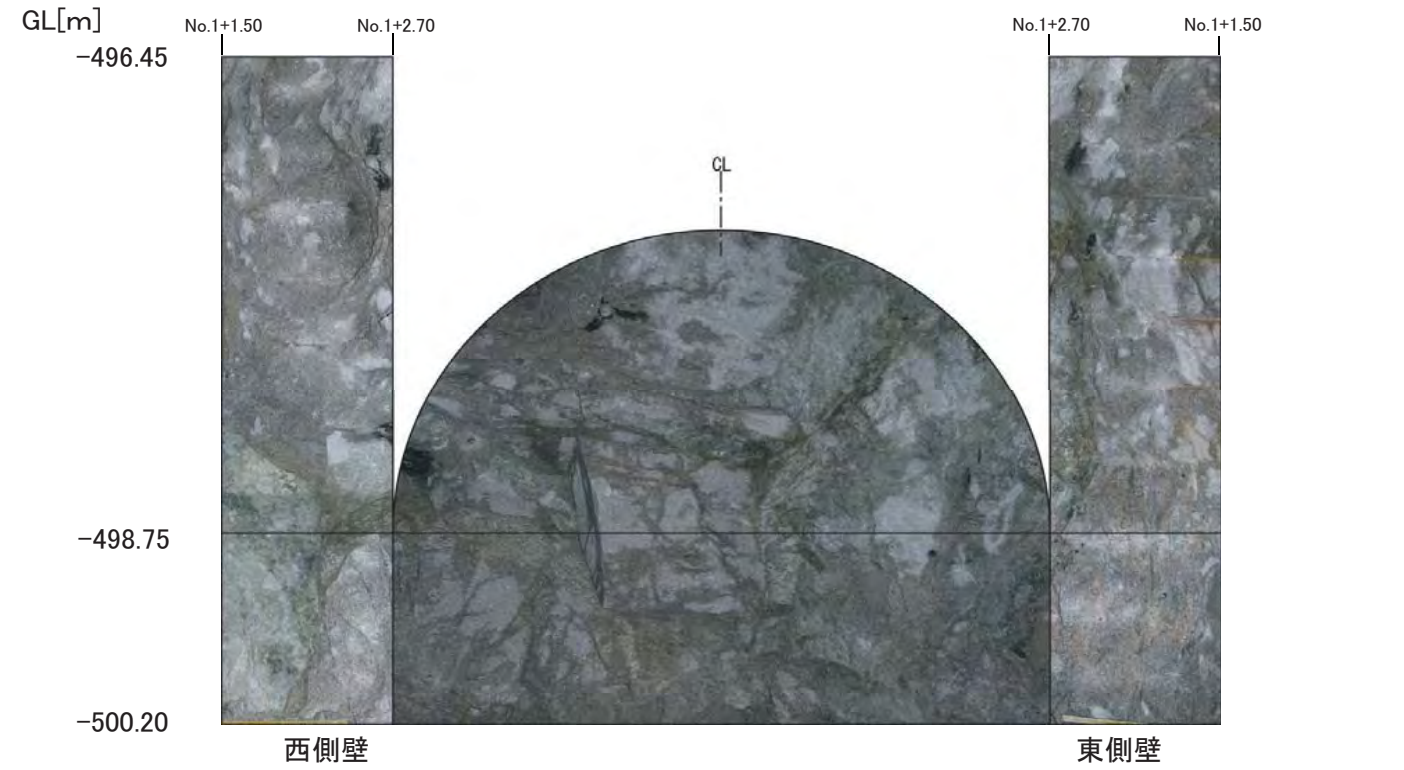
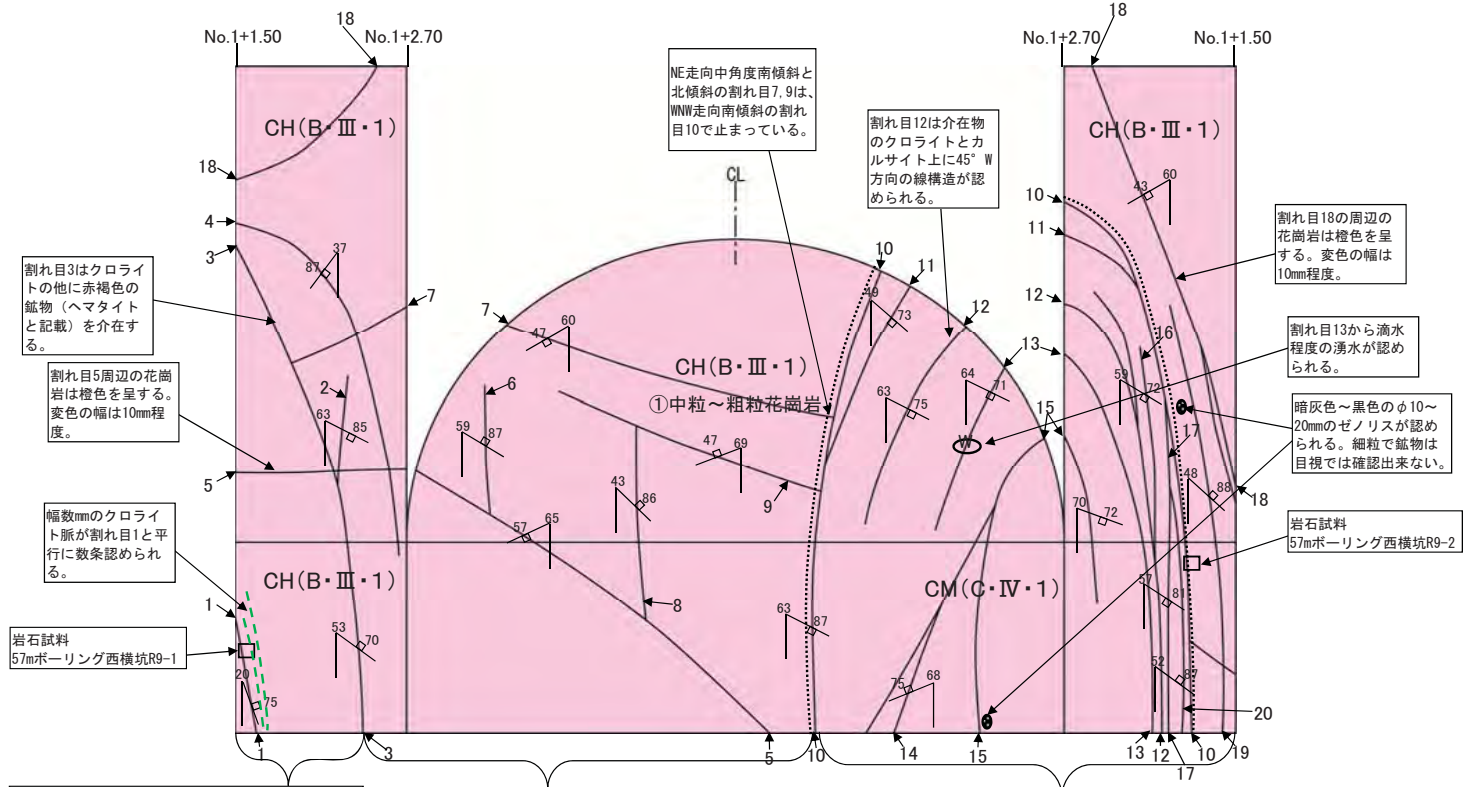
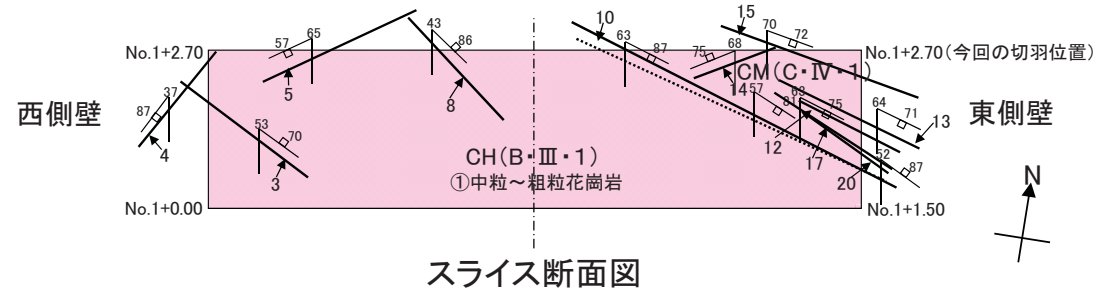
A5-請負-計測工(地質)-130109

シート番号	57mボーリング西横坑9	日時	2013/1/9 17:00~18:30	位置・深度	57mボーリング西横坑9 G.L. -496.5 m~G.L. -500.2 m	観察・撮影者	
-------	--------------	----	-------------------------	-------	---	--------	--

総括監督員	主任監督員	監督員	担当者

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体
現場代理人

凡例 花崗岩 割れ目 割れ目の走向傾斜 岩級区分境界 湧水 クロライト脈



NE走向中角度南傾斜と北傾斜の割れ目7, 9は、NNW走向南傾斜の割れ目10で止まっている。
割れ目12は介在物のクロライトとカルサイト上に45° W方向の線構造が認められる。
割れ目18の周辺の花崗岩は橙色を呈する。変色の幅は10mm程度。
割れ目13から滴水程度の湧水が認められる。
暗灰色~黒色のφ10~20mmのゼノリスが認められる。細粒で鉱物は目視では確認出来ない。
岩石試料 57mボーリング西横坑R9-2

NW走向高角度東~北傾斜の割れ目が20cm程度の間隔で認められる。割れ目はカルサイト、クロライト、赤褐色の鉱物(ヘマタイトと記載)を介在する。花崗岩には程度の弱い変質が認められ、有色鉱物の一部がクロライトに置き換わっている。また、長石の一部が緑色に変色している。そのため、花崗岩は全体に淡褐色~淡緑色を呈する。ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さ。

NW走向高角度北傾斜の割れ目が30~50cm程度の間隔で、NE走向中角度南傾斜と北傾斜の割れ目が20~50cm程度の間隔で認められる。他に、NNW走向南傾斜の割れ目2やNE走向高角度東傾斜の割れ目4が認められる。割れ目はカルサイトとクロライトを介在する。花崗岩には変質がほとんど認められず、有色鉱物は概ね残存している。花崗岩は全体に淡桃色を呈する。ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さ。

NW~NNW走向高角度南傾斜と北傾斜の割れ目が6~10cm程度の間隔で認められる。他に、NE走向高角度北傾斜の割れ目14やNE走向中角度南傾斜の割れ目18が認められる。割れ目にはクロライト、カルサイト、淡緑色の粘土を介在する。花崗岩は中程度の変質により、黒雲母などの有色鉱物は半数程度がクロライトに置き換わっている。長石は淡褐色を呈する。そのため、花崗岩は全体に淡緑色~淡褐色を呈する。ハンマーの打撃で金属音を発する程度の硬さ。

岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -496.45m~-498.95m CH/CM G.L. -498.95m~-500.2m CH/CM
岩相	①中粒~粗粒花崗岩 (淡桃色、橙色、淡褐色、淡緑色)	RMR値	G.L. -496.45m~-498.95m 58 G.L. -498.95m~-500.2m 64
風化	α	岩石試料番号	57mボーリング西横坑R9-1 (花崗岩), 57mボーリング西横坑R9-2 (花崗岩)
変質	1~3	採水試料番号	-
湧水	滴水程度		

特記事項

当箇所は57mボーリング西横坑であり、掘進方向はN9° W方向である。横坑観察は切羽から1.2m離れた場所より目視観察を実施した。岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径がφ2~7mm程度の中粒~粗粒花崗岩である。花崗岩の変質は、割れ目3付近から西側では、程度の弱い変質により一部の有色鉱物がクロライトに置き換わっている。割れ目3付近から割れ目10の間は、ほとんど変質が認められず、有色鉱物のほとんどが残存し、花崗岩は全体に淡桃色を呈する。また、割れ目10から東側は、中程度の変質により、有色鉱物の半数程度がクロライトに置き換わり、花崗岩は淡緑色~淡褐色を呈する。割れ目の走向傾斜は、割れ目3付近から西側では、NW走向高角度東~北傾斜の割れ目が主体で認められる。割れ目3付近から割れ目10の間では、NW走向高角度北傾斜とNE走向中角度南傾斜と北傾斜が主体で、他にNNW走向南傾斜やNE走向高角度東傾斜が認められる。

割れ目10から東側の割れ目の走向傾斜は、NW~NNW走向高角度南傾斜と北傾斜が主体で、他にNE走向高角度北傾斜やNE走向中角度南傾斜が認められる。割れ目の介在物は、カルサイトとクロライト、淡緑色の粘土、赤褐色の鉱物(ヘマタイトと記載)が認められる。湧水は割れ目13から滴水程度で認められた。岩級区分は、割れ目10から西側では、割れ目間隔が20~50cm程度で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることから、CH(B・Ⅲ・1)級と評価した。また、割れ目10から東側では、割れ目間隔が6~10cm程度で、ハンマーの打撃で金属音を発する程度の硬さであることから、CM(C・Ⅳ・1)級と評価した。

A工区地質記載シート

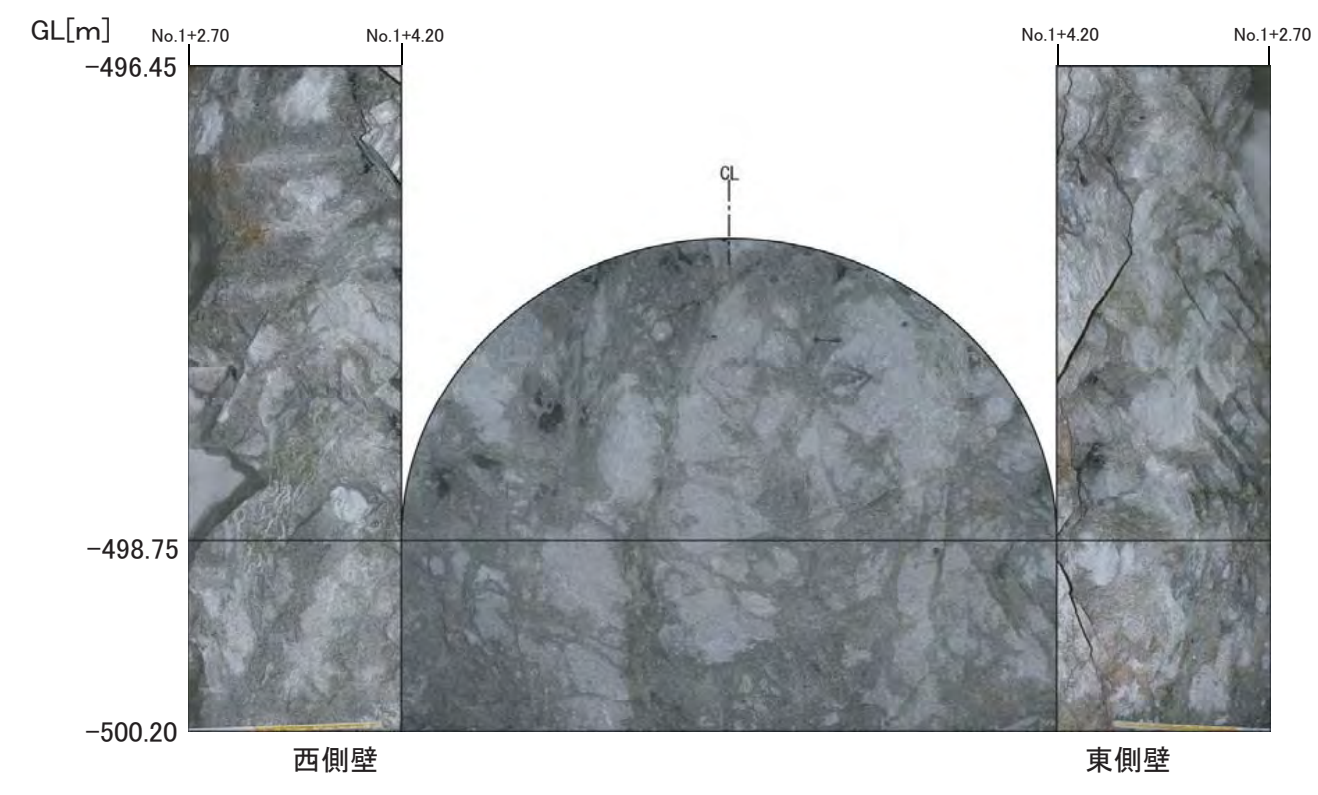
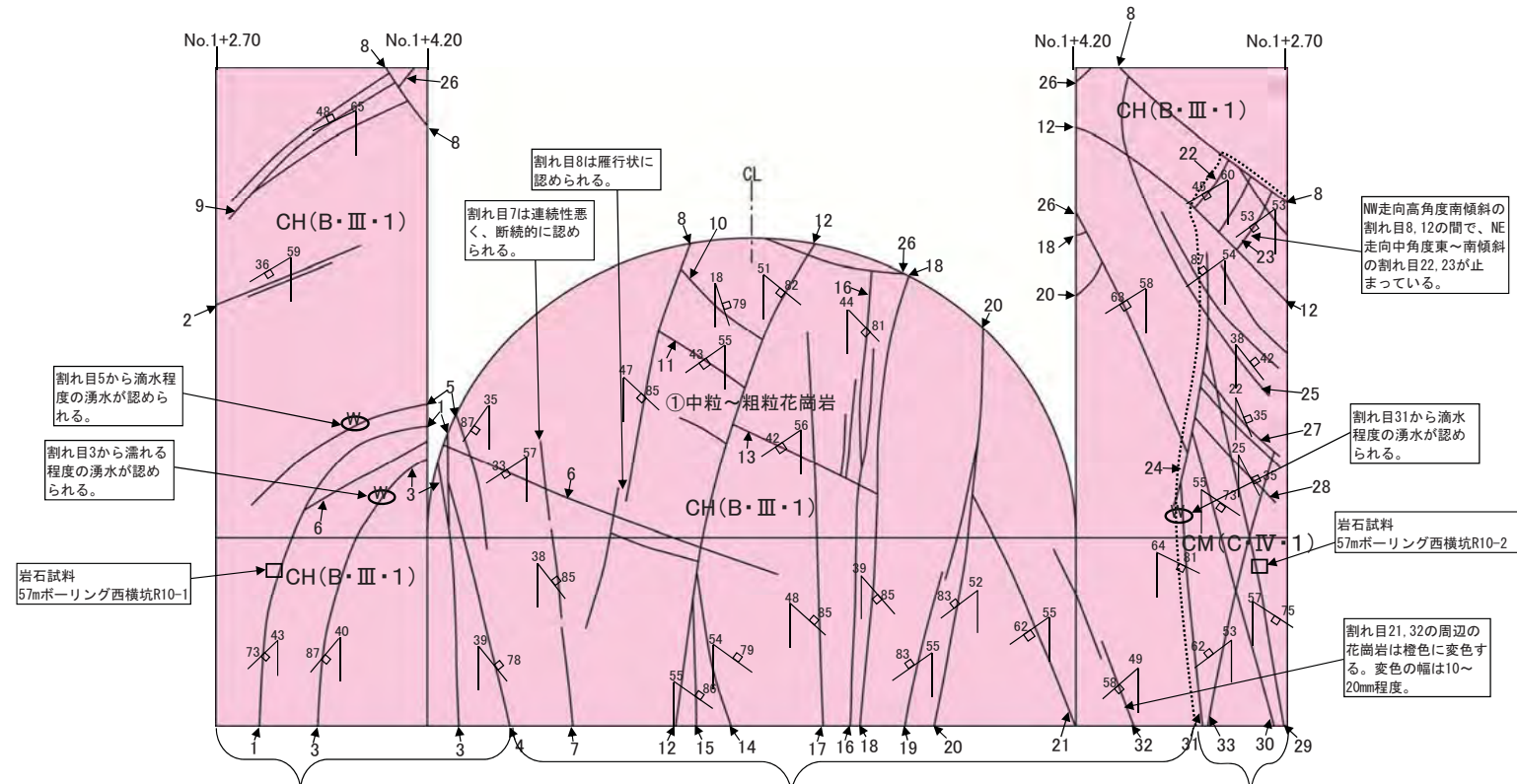
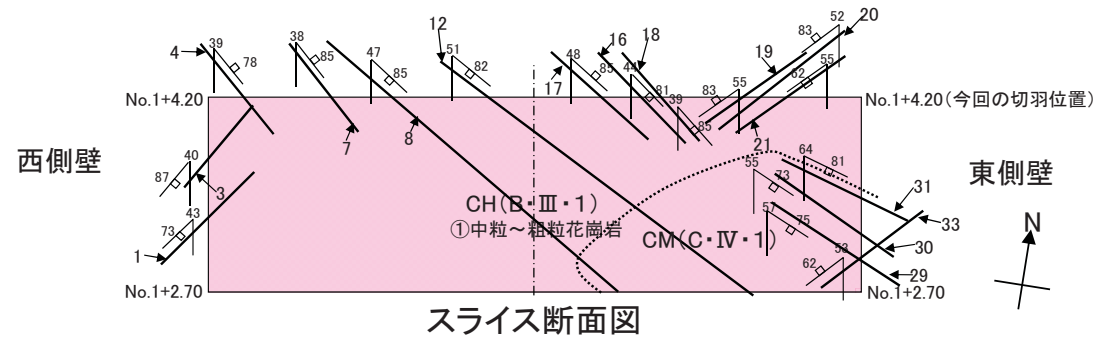
A5-請負-計測工(地質)-130111

シート番号	57mボーリング西横坑10	日時	2013/1/11 10:00~11:30	位置・深度	57mボーリング西横坑10 G.L. -496.5 m~G.L. -500.2 m	観察・撮影者	
-------	---------------	----	--------------------------	-------	--	--------	--

総括監督員	主任監督員	監督員	担当者

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体
現場代理人

凡例	花崗岩	割れ目	割れ目の走向傾斜	岩級区分境界	湧水	クロライト脈
----	-----	-----	----------	--------	----	--------



NE走向高角度東傾斜の割れ目が20cm程度の間隔で認められる。他に、NW走向高角度北傾斜の割れ目4やNE走向中角度南傾斜の割れ目2, 6が認められる。割れ目はカルサイトを介在する。花崗岩には程度の弱い変質が認められ、有色鉱物の一部がクロライトに置き換わっている。また、カリ長石の一部が淡褐色に変色している。そのため、花崗岩は全体に淡褐色～淡桃色を呈する。ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度。

NW走向高角度北傾斜と南傾斜の割れ目が30~60cm程度の間隔で、NE走向中角度南傾斜と北傾斜の割れ目が20~30cm程度の間隔で認められる。他に、NE走向高角度北～西傾斜の割れ目19, 20やNE走向高角度南傾斜の割れ目26が認められる。NE走向中角度の割れ目はNW走向高角度の割れ目で止まる。割れ目はカルサイトとクロライト、淡緑色の粘土を介在する。花崗岩には変質がほとんど認められず、有色鉱物は概ね残存している。花崗岩は全体に淡褐色を呈する。ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さ。

NW~WNW走向高角度南傾斜と北傾斜の割れ目が6~10cm程度の間隔で、NW走向中角度北～東傾斜の割れ目が6~10cm程度の間隔で認められる。他に、NE走向中角度東傾斜の割れ目32やNE走向高角度西傾斜の割れ目33が認められる。割れ目にはクロライト、カルサイトを介在する。花崗岩は程度の弱い変質により、黒雲母などの有色鉱物は一部がクロライトに置き換わっている。長石は淡褐色を呈する。そのため、花崗岩は全体に淡褐色～淡桃色を呈する。ハンマーの打撃で金属音を発する程度の硬さ。

岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -496.45m~-498.95m CH/CM
岩相	①中粒～粗粒花崗岩 (淡桃色、橙色、淡褐色)	RMR値	G.L. -496.45m~-498.95m 58 G.L. -498.95m~-500.2m 64
風化	α	岩石試料番号	57mボーリング西横坑R10-1 (花崗岩), 57mボーリング西横坑R10-2 (花崗岩)
変質	1~2	採水試料番号	-
湧水	滴水程度		

特記事項

当箇所は57mボーリング西横坑であり、掘進方向はN9°W方向である。横坑観察は切羽から1.5m離れた場所より目視観察を実施した。岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径がφ2~7mm程度の中粒～粗粒花崗岩である。花崗岩の変質は、割れ目4付近から南西側と割れ目31付近から南東側では、程度の弱い変質により一部の有色鉱物がクロライトに置き換わり、花崗岩は淡褐色～淡桃色を呈する。割れ目4付近から割れ目31付近の間は、ほとんど変質が認められず、有色鉱物のほとんどが残存し、花崗岩は全体に淡褐色を呈する。割れ目の走向傾斜は、割れ目4付近から南西側では、NE走向高角度東傾斜が主体で、他にNW走向高角度北傾斜やNE走向中角度南傾斜が認められる。割れ目4付近から割れ目31付近までの間は、NW走向高角度北傾斜と南傾斜およびNE走向中角度南傾斜と北傾斜が主体で、他にNE走向高角度北～西傾斜やNE走向高角度南傾斜が認められる。割れ目31付近から南東側の割れ目の走向傾斜は、NW~WNW走向高角度南傾斜と北傾斜およびNW走向中角度北～東傾斜が主体で、他にNE走向中角度東傾斜やNE走向高角度西傾斜が認められる。割れ目の介在物は、カルサイトとクロライト、淡緑色の粘土が認められる。湧水は割れ目5, 31から滴水程度で、割れ目3からは滲れる程度で認められた。岩級区分は、割れ目31付近から北西側では、割れ目間隔が20~60cm程度で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることから、CH(B・Ⅲ・1)級と評価した。また、割れ目31付近から南東側では、割れ目間隔が6~10cm程度で、ハンマーの打撃で金属音を発する程度の硬さであることから、CM(C・Ⅳ・1)級と評価した。

A工区地質記載シート

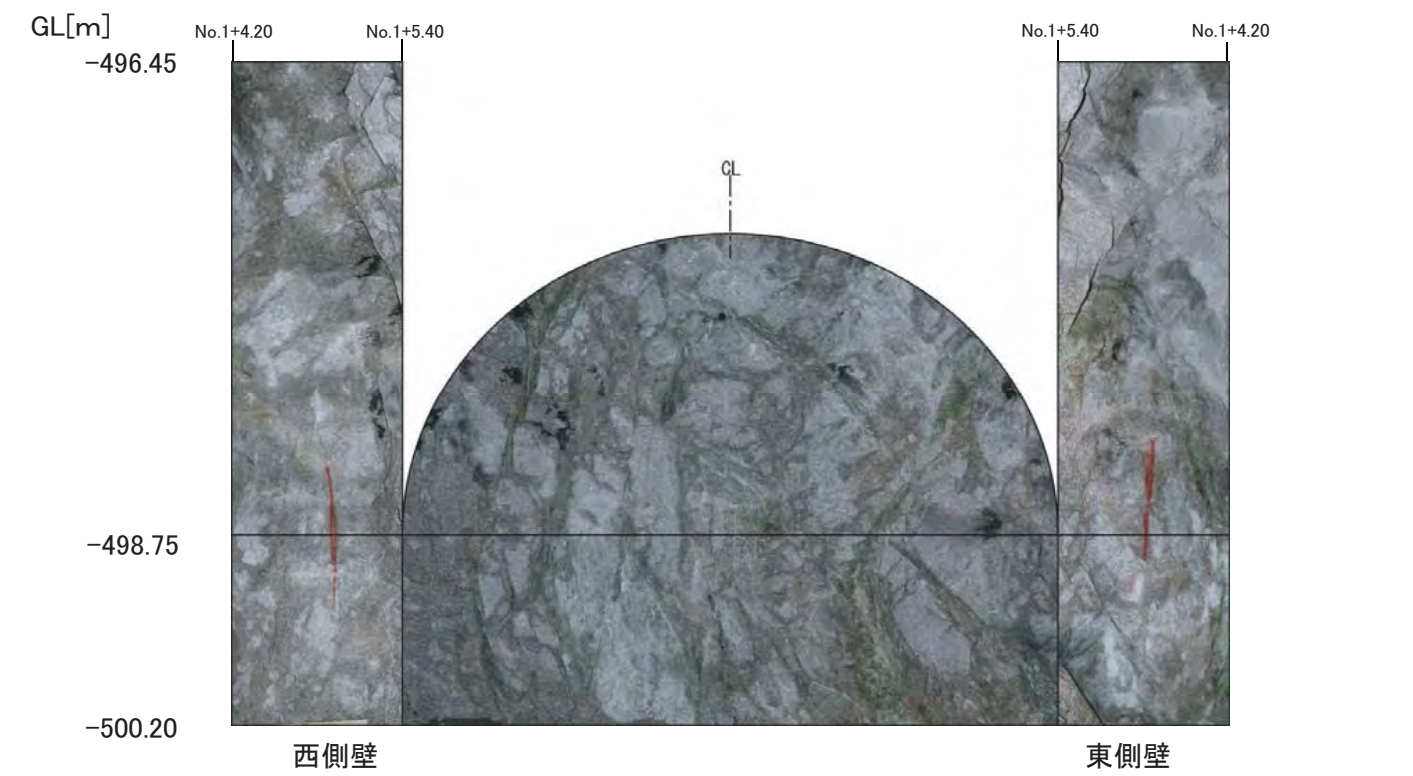
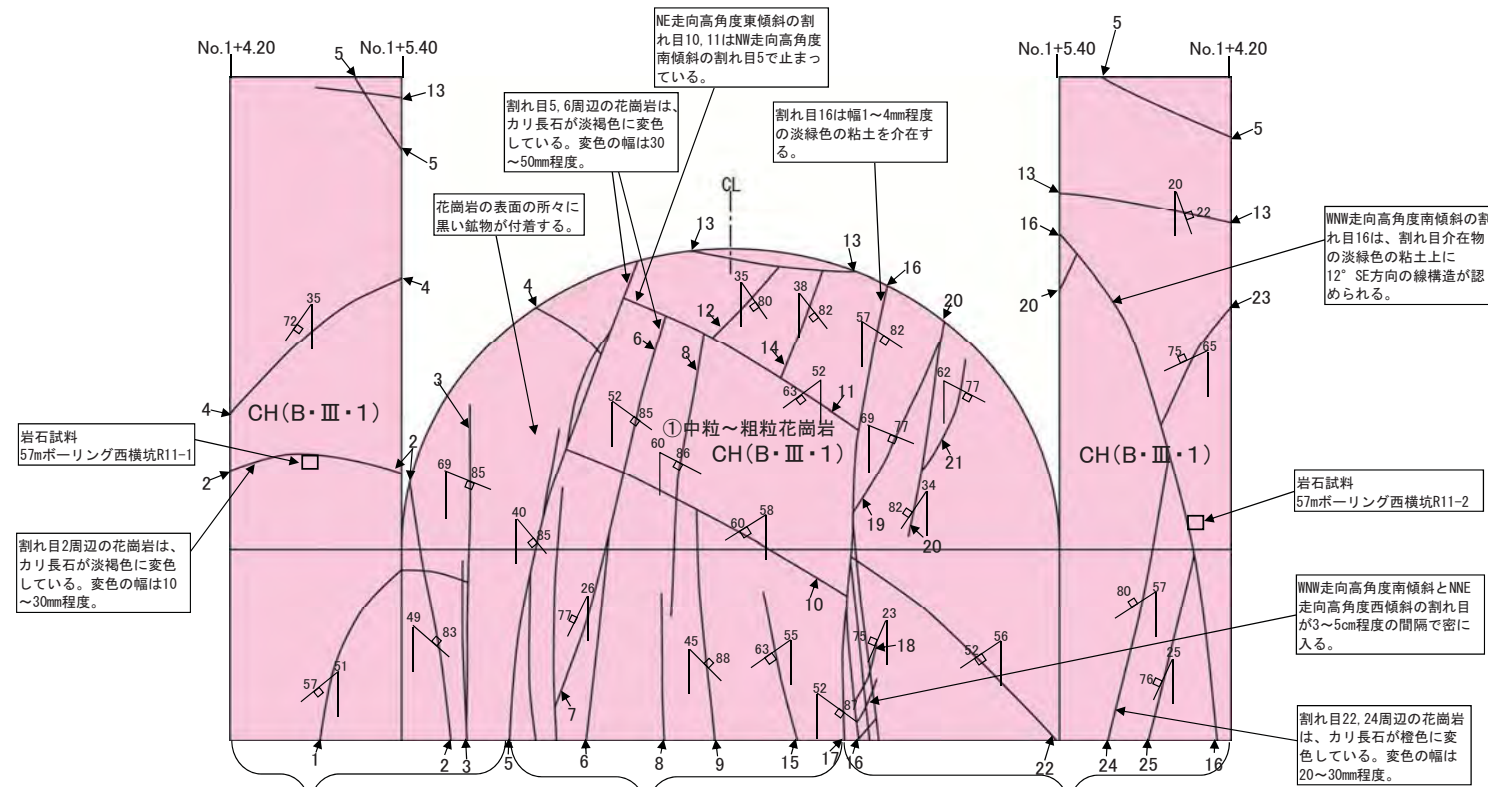
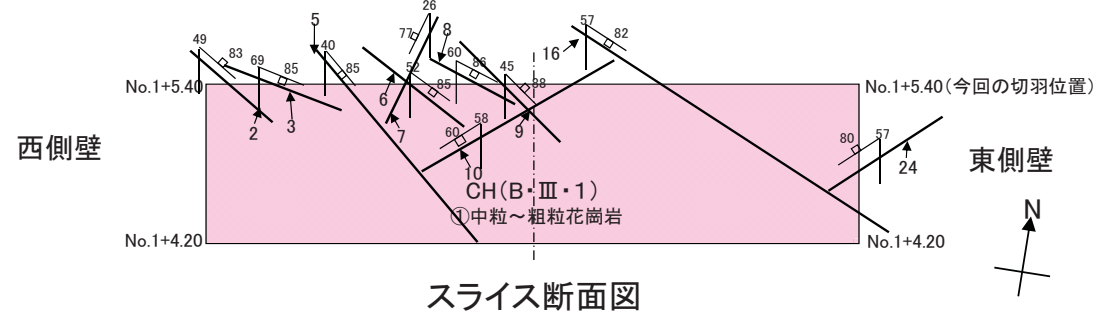
A5-請負-計測工(地質)-130112

シート番号	57mボーリング西横坑11	日時	2013/1/12 16:00~17:30	位置・深度	57mボーリング西横坑11 G.L. -496.5 m~G.L. -500.2 m	観察・撮影者	
-------	---------------	----	--------------------------	-------	--	--------	--

総括監督員	主任監督員	監督員	担当者

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体
現場代理人

凡例	花崗岩	割れ目	割れ目の走向傾斜	岩級区分境界	湧水
----	-----	-----	----------	--------	----



NE走向中~高角度東傾斜の割れ目が20~30cm程度の間隔で、WNW走向高角度北傾斜と南傾斜の割れ目が20cm程度の間隔で認められる。割れ目はカルサイトとクロライトを介在する。花崗岩には変質はほとんど認められず、有色鉱物は概ね残存している。花崗岩は全体に淡桃色を呈する。ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さ。

NW走向高角度北傾斜と南傾斜の割れ目が30~60cm程度の間隔で、NE走向高角度西傾斜と東傾斜の割れ目が30~40cm程度の間隔で認められる。他に、NW走向低角度東傾斜の割れ目13が認められる。割れ目はカルサイトとクロライトを介在する。花崗岩には変質がほとんど認められず、有色鉱物は概ね残存している。花崗岩は全体に淡桃色を呈する。ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さ。

NW~WNW走向高角度南傾斜の割れ目が20~30cm程度の間隔で、NNE~NE走向高角度西傾斜の割れ目が20~30cm程度の間隔で認められる。他に、NE走向中角度南傾斜の割れ目22が認められる。割れ目にはクロライト、カルサイト、淡緑色の粘土を介在する。花崗岩は変質がほとんど認められず、黒雲母などの有色鉱物は概ね残存している。花崗岩は全体に淡桃色を呈する。ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さ。

岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -496.45m~-498.95m G.L. -498.95m~-500.2m	CH CH
岩相	①中粒~粗粒花崗岩 (淡桃色、橙色、淡褐色)	RMR値	G.L. -496.45m~-498.95m G.L. -498.95m~-500.2m	64 64
風化	α	岩石試料番号	57mボーリング西横坑R11-1 (花崗岩), 57mボーリング西横坑R11-2 (花崗岩)	
変質	1~2	採水試料番号	-	
湧水	無し			

特記事項

当箇所は57mボーリング西横坑であり、掘進方向はN9° W方向である。横坑観察は切羽から1.2m離れた場所より目視観察を実施した。岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径がφ2~7mm程度の中粒~粗粒花崗岩である。花崗岩の変質はほとんど認められず、有色鉱物のほとんどが残存し、花崗岩は全体に淡桃色を呈する。割れ目の周辺においては、カリ長石の淡褐色化や橙色化が認められる。

割れ目の走向傾斜は、割れ目5付近から南西側では、NE走向中~高角度東傾斜とWNW走向高角度北傾斜と南傾斜が主体で認められる。割れ目5付近から割れ目17付近までは、NW走向高角度北傾斜と南傾斜およびNE走向高角度西傾斜と東傾斜が主体で、他にNW走向低角度東傾斜が認められる。割れ目17付近から北東側は、NW~WNW走向高角度南傾斜およびNNE~NE走向高角度西傾斜が主体で、他にNE走向中角度南傾斜が認められる。

割れ目16は割れ目介在物の淡緑色の粘土上に線構造が認められたことから、せん断割れ目と判断した。割れ目の介在物は、カルサイトとクロライト、淡緑色の粘土が認められる。湧水は認められなかった。岩級区分は、割れ目間隔が20~60cm程度で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることから、CH (B・Ⅲ・1) 級と評価した。